

配 天 宮

所在 朴子街朴子番地不詳

教 別	儒 教
祭 神	天上聖母
創 立	康熙二十六年
信 徒	約一萬五千人
例 祭	舊曆一月十五日、三月廿三日、六月六日、七月廿五日
僧 侶	朴子街朴子 林振沛
管理委員長	朴子街朴子 黃媽典
財 產	畑一甲三五四五、此の年収益約五十圓也

沿革||本廟の主神媽祖の神像は康熙二十六年半月庄の某が鹿港より携へ來り途中牛稠溪南岸の掛茶屋に滞在中附近住民の要請に依り同地に一小祠を建て一般の禮拜に便したるものなるが祠側に樸樹あるより名も樸仔宮と名けたり其後同地の住民漸次増加し市街を形造るに至り街名も亦た樸仔街と名けたりと改築及増築は康熙五十四年中殿及拜殿を改築し乾隆三十六年修繕、嘉慶二十年王得襄、黃誌仁の主唱にて増築、同治四年重修此時廟名を配天宮と改め更に大正四年大修繕を加へたりと最後の大修繕落成の時は嘉義廳長も其式に臨み經費約一萬五千圓を要したりと

安 福 宮

所在 朴子街朴子番地不詳

教 別	儒 教
祭 神	池王爺
創 立	約百年前
信 徒	約三百人
例 祭	舊曆六月十八日
廟 守	朴子街朴子 李火勝
管理人	朴子街朴子 方乞食
同 同	同 同 褚 桂
同 同	同 同 柯 湖
財 產	祠廟敷地○甲四五五

沿革||本廟は最初竹柱の一小祠なりしを咸豐四年頃現廟宇に改築し其後更に一回の修繕を加へたりと云ふも詳細の狀況を知る能はず

龍 樹 亭

所在 朴子街朴子

教 別	佛 教
祭 神	觀音佛祖、太子爺
創 立	康熙年間
信 徒	約五百人
例 祭	舊曆六月十九日、七月十九日、九月九日
廟 守	朴子街朴子 黃乞食
管理人	朴子街朴子 黃慎儀
同 同	同 同 黃炳焜
同 同	同 同 黃清朝
同 同	同 同 黃繼周
財 產	祠廟敷地○甲○七三五、畑一甲五〇八五

沿革||往時鄭成功の軍が當地を平定せる際從前の在住者が建設せる廟宇を改築し觀音佛祖を合祀せりと云ふも其狀況詳かならず其後明治三十四年黃進興、林文奎、黃及三の斡旋にて工費百六十圓を投じて改修し更に乾隆五十八年、道光十六年の頃にも修繕を加へたりと云ふ

上 帝 廟

所在 朴子街朴子

教 別	儒 教
祭 神	上帝爺
創 立	同治二年
信 徒	約百人
例 祭	舊曆三月三日、七月廿五日
廟 守	朴子街朴子 林氏險
爐 主	朴子街朴子 林 頓
財 產	廟宇一棟木造五葺平家

沿革||本廟の祭神は元童 黃佛の家神なりしが附近の住民病氣の平癒を祈願す

るに靈顯ありとて漸次信仰を加へ遂に信者の出捐に依り本廟を建立するに至りたるものにして其他不詳

保安宮

所在 朴子街朴子

教別	儒教
祭神	朱王、刑王、李王
創立	明治十八年
信徒	約五百人
例祭	舊曆一月四日、八月廿四日、十月十五日

香公	(朴子街)	王鳥鼠
爐主	朴子	劉明讚
管理人	朴子	王鳥鼠

財產 祠廟敷地○甲○〇四〇

沿革 本廟は明治十八年頃楊英、黃地、王好などの幹旋にて建立されたるものなりと稱するも其狀況詳らかならず

巡天宮

所在 朴子街朴子

教別	佛教
祭神	觀音佛祖
創立	咸豐九年
信徒	約千五百人
例祭	舊曆二月十九日、四月廿六日、六月十九日、七月廿五日、九月十五日、九月十九日

香公	朴子街朴子	黃清
爐主	同	鄭烏技
管理人	同	黃讚良

財產 祠廟敷地○甲○一三〇

沿革 本廟は黃成、黃亮、尤鳳、馮知、尤溪、黃清雲、黃側等の幹旋にて咸豐九年建立されたるが明治四十一、二年の交前殿の建物倒壊し且つ市區改區に當りたれば今は後殿のみ現存すと

有應公廟

所在 朴子街朴子

教別	儒教
祭神	無縁の枯骨及同位牌
創立	明治四十四年
信徒	六百餘人
例祭	一定の祭日なし、唯だ毎年舊八月中に參詣者多し

爐主管理人等	缺員
財產	祠廟敷地共一棟土角造、瓦葺二百五十坪

沿革 創立の狀況知るものなし其後明治四十四年有志の喜捨に依り現廟宇を建設せりと

正心堂

所在 朴子街朴子

教別	齋教(金幢又は龍華)
祭神	觀音佛祖
創立	明治二十五年頃
信徒	十四名

例祭	舊曆六月十九日、九月十九日	
榮姑	朴子街朴子	陳氏賢
同	同	侯氏順
財產	堂宇敷地共一棟棟瓦及木造瓦葺四十四坪	

沿革 今より四十餘年前太保庄王順記所有の公館を借受け創設したるが明治三十七年市區改正に當りたれば之を撤して現在の建物を新築せり此の新築は頂楚英主唱し齋友其他の信者より金一千圓を募り其費用に充てたりと

新龍宮

所在 朴子街下竹園

教別	儒教
祭神	范王爺
創立	明治四十年頃
信徒	五百餘人
例祭	舊曆三月三日、六月十八日、八月廿三日、十月十五日

爐主	朴子街下竹園	許湖
管理人	同	張長

財 産 祠廟敷地○甲○六三五
 沿革 沿革不詳、以前は小さき瓦葺の祠なりしを今より四十年前張放養、鄭強故、黃鷺等の主唱にて庄民有志百數十圓を出捐して本廟に改築せりと

五年王爺廟

所在 朴子街下竹園

教 別 儒教
 祭 神 五年王爺
 創 立 約九十年前
 信 徒 三千人
 例 祭 舊曆八月十六日(五年目毎に十日間祭祀を行ふ)
 爐 主 朴子街下竹園 黃 賞
 管理人 同 黃 犁
 財 産 祠廟敷地○甲○五一五

沿革 今より約百年創立せりとの事なるも當時の状況詳かならず、大正四年庄内より十五六圓を醸金して小修繕を爲したる事あるも其他は明かならず

龍安宮

所在 朴子街大棟榔

教 別 儒教
 祭 神 魏王爺、李王、利王
 創 立 同治十年
 信 徒 四五百人
 例 祭 舊曆六月十九日、八月廿三日、九月十五日
 管理人 朴子街大棟榔 李 虎
 同 第四保正沈善夫は管理人にあらざるも大に本廟の爲め盡力し居れり
 財 産 祠廟敷地○甲○四六〇

沿革 南鯤鯓廟より分香し來り小祠を造りて祀りしが同治十年涂糞、涂右、徐滔、許吟、沈以、徐送、徐佳、沈再、徐狹、許吉等奔走斡旋して千百五十六圓を醸金し現在の廟宇を建立遷祀しなるものなりと

開基祖廟

所在 朴子街大棟榔

教 別 儒教
 祭 神 天上聖母
 創 立 約二百年前
 信 徒 一千八百人
 例 祭 舊曆一月五日、三月廿三日、七月廿四日
 爐主及管理人 朴子街大棟榔 徐 大 廣
 財 産 祠廟敷地○甲二〇四〇、畑一甲九四八〇、建物敷地○甲二〇四〇

沿革 今より約二百年前徐姓の祖先(六房十八人)が支那より渡來の際携へ來りたる祭神を奉祀する爲め建立せる廟宇にして爾來同姓の子孫のみにて祭祀し來れり其後道光年間及明治四十三年の兩回大修繕を加へたり費用は無論徐姓の一族より醸出し且つ所屬財産の一部を處分せりと

福德祠

所在 朴子街大棟榔

教 別 儒教
 祭 神 福德爺
 創 立 約百六十年前
 信 徒 約二千二百人
 例 祭 舊曆一月八日、一月十五日、四月廿六日、五月廿八日、八月十五日
 管理人 朴子街大棟榔 徐 大 廣
 財 産 祠廟一棟其建坪一三坪六〇

沿革 今より約百六十年前の創立なりと稱するも當時の状況詳かならず、併し廟側に乾隆二十九年建立の荷苞嶼に關する石碑あり察するに本廟は此の石碑建立以前の建立ならんと

王爺廟

所在 朴子街双溪口

教 別 儒教

祭神 連王爺
 創立 不詳
 信徒 百五十人
 例祭 舊曆十一月九日
 爐主 朴子街双溪口
 管理人 同 曾 侯 水 川
 財產 祠廟敷地共〇甲〇五三三五

沿革 最初同地の某が蘆菜埔より連王爺を奉じ來り假祭壇を造りて奉祀したるものなるが光緒十一年現在の廟宇に改築せり、此改築には洪迎、曾山知、侯順の三名専ら盡力して部落内より金七十五圓を募集し其資に充てたりと

石碼宮

所在 朴子街双溪口

教別 儒教
 祭神 林元帥(兄弟三人の木偶)
 創立 道光十二年
 信徒 約千五百人
 例祭 舊曆六月十二日
 願廟及管理人 朴子街双溪口 侯天元
 財產 祠廟敷地〇甲一〇九五、同〇甲三四五、畑〇甲八一三〇、右の年收益十八圓

沿革 今より二百年前當庄に移住せる侯姓のものが支那より携へ來りたる祭神を道光十二年廟宇を建て奉祀せるもの其後光緒十年侯桂仁、侯和主となりて捐金改築を行ひたり創立の際の費用は約千二百圓、修繕の際は約八百圓を要したりと

福安宮

所在 朴子街小糠榔

教別 儒教
 祭神 元帥爺、李王、刑王、林王、朱王、范、太子爺、福德爺
 創立 道光元年
 信徒 約五百人
 例祭 舊曆四月廿四日、八月廿二日

願守 朴子街小糠榔 黃 榮
 管理人 同 王來旺
 財產 祠廟敷地〇甲二二〇五

沿革 以前は竹柱の小祠に紙張子の神體を祀るに過ぎりしを道光元年庄内の有力者蘇某が主唱して現今の廟宇を建立せり其後幾度かの風水災に逢ひ自然廟宇も大破損を蒙りたりれば明治四十三年何蟬、王來旺、黃知高、陳雞、蘇知母、黃朱元等發起となり信者協議の上千三百九十三圓を醸集して大改築を加へたりと

德安宮

所在 朴子街應菜埔

教別 儒教
 祭神 五王爺、王爺、李、刑、池、鍾、金、李太祖、娘媽
 創立 約五十年前
 信徒 約五百人
 例祭 舊曆三月十五日、四月廿六日、六月廿八日、九月十五日
 爐主 朴子街應菜埔 蔡 偏
 管理人 同 李明朝
 財產 祠廟敷地〇甲一三二八

保安宮

所在 朴子街炭前

教別 儒教
 祭神 五王爺、朱、刑、李、金、范、福德爺
 創立 不詳
 信徒 約三百人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 朴子街炭前 陳 由
 財產 祠廟敷地〇甲七一〇〇、池沼〇甲九一三五、畑一甲一九三一、但此池沼畑の管理人は蘇皇、廖珍、方江、莊萬福、陳由、五人、年收益三十三圓

沿革 創立の年代不詳なるも當時陳自

修、陳竹脚、謝要、陣賀、黃安、陳田、陳質等主となり信徒六十餘名より金五百餘圓を募り創立せるものなりと

福 德 祠

所在 朴子街坎前

教 別 儒教
 祭 神 福德爺
 創 立 約六七十年前
 信 徒 約貳百人
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 朴子街坎前 蘇 皇
 財 產 祠廟敷地○甲○二五〇、同○甲○〇三〇

沿革 今より七八十年前坎前部落に惡疫流行し死亡夥だしく新廟を建立して祈願せば靈顯あるべしと説くものあり庄民協議の上其共有財産より資を出して本廟を建立し保安宮より福德爺を分香し來つて奉祀したるものなりと

土 地 公 廟

所在 朴子街坎後

教 別 儒教
 祭 神 土地公(福德爺)
 創 立 不詳
 信 徒 三百人
 例 祭 舊曆二月二日
 管理人 朴子街坎前 陳 良
 財 產 田○甲五五三五、右に對する年收益十圓

沿革 創立不詳、改築は明治四十年頃同地の故張換發起して庄内有志より經費百二十餘圓を醸集し本廟を建築したるものなりと

澤 山 宮

所在 朴子街鴨母寮

教 別 儒教
 祭 神 護國尊王、李玉、溫王、池王、上帝

爺、九天玄女、虎爺、山君尊神、土地公

創 立 不詳
 信 徒 約二百八十餘人
 例 祭 舊曆三月十二日、四月廿六日、六月六日、六月十八日、八月十五日、九月十五日、十一月廿五日

產 理 人 朴子街鴨母寮 黃 儼
 財 產 祠廟敷地○甲○四八〇、同一甲二九五〇

沿革 祭神は同地黃姓の祖先が支那より携へ來りたるものにして其後今より百三十四年前廟宇を建立して之に合祀したるものなるが其後明治三十六年陳烏皮、外一名發起となり一般信徒より寄附を募り修繕を加へたりと

城 隍 廟

所在 朴子街鴨母寮

教 別 儒教
 祭 神 城隍爺
 創 立 大正三年
 信 徒 約七十人餘
 例 祭 舊曆五月廿八日
 管理人 朴子街鴨母寮 林 新樓
 財 產 廟宇一棟平屋瓦葺十二坪

沿革 本廟は當部落民が下竹圍東鞍寮より移住したる際林新樓が發起となり部落民より百餘圓を集め建立せるものにして其後修築改築等なし

關 帝 廳

所在 朴子街張竹子脚

教 別 儒教
 祭 神 關帝爺、祖師公、張媽、七星娘々
 創 立 不詳
 信 徒 三百餘人
 例 祭 舊曆二月六日、一月十三日、十一月十五日、十一月廿六日、但し近年は例祭を行はず

管理人事 朴子街張竹子脚 張 文

沿革 同地移住民の祖先が神像を支那より携へ來り後書房を建て、其處に祀りたり（年代不詳）其後明治三十八年同地の張富外一名金二百圓を捐出して修繕せりと

上帝廟

所在 朴子街新庄

教別	儒教
祭神	上帝爺、清大哥、觀音佛祖、祖師公
創立	不詳
信徒	約四百人
例祭	舊曆一月六日、三月三日、六月十日
管理人	朴子街新庄 蘇萬生
財產	建物敷地○甲四三〇〇、同○甲〇七九〇、田一甲一三〇九、畑一甲三七九五、同○甲六八二〇

沿革 祭神中の清大哥と稱するは林姓某の事にて同人は支那より當地へ移住の時上帝爺を奉じ來り自ら其所有地に廟を建て、之を奉祀し且つ其遺産を擧げて廟の維持費に充てたるが光緒十八年當地の吳堀、吳顯等發起となり約六百圓を集めて之を改築せり之れ現在の廟宇なり

振安宮

所在 朴子街龜子港

教別	道教
祭神	刑王爺、福德爺
創立	不詳
信徒	約五百人
例祭	舊曆十月十五日
管理人	朴子街龜子港 蔡 醜
財產	祠廟敷地○甲〇四五〇、建物敷地○甲〇二九五、同○甲〇七一一〇、畑○甲七二七五、同○甲二四四五、同○甲一一〇〇、此年收登十九圓

沿革 年代不詳同地の蔡知なるものが創立せりと傳へらるゝも詳細不明なり其後明治十年徐祥、黃田、劉厘等發起して

現今の南向に改築し更に十年を経て廟の後方に書房を増築せり其他の狀況詳らかならずと

德安宮

所在 六脚庄林内

教別	儒教
祭神	三王爺（李王爺、利王爺、朱王爺）
創立	天保八年
信徒	六百人
例祭	舊曆九月及十月不定日（凶年は一回祭禮を行ふ）
管理人	六脚庄林内 吳 建
財產	祠廟及敷地甲數不詳

沿革 本廟は天保八年頃當地の吳王なるものが所在住民より百四十七圓を集め農作物の豊穰及家内安全を祈る爲め創設したるものなるが其後の狀況は不明なり

上帝廟

所在 六脚庄林内

教別	儒教
祭神	玄天上帝
創立	大正三年
例祭	舊曆三月、九月、十月不定日
信徒	約百人
管理人	六脚庄林内 林開春

沿革 現今殆んど廢止の姿となり居れり

王爺廟

所在 六脚庄林内

教別	儒教
祭神	王爺
創立	大正三年
例祭	舊曆三月、十月不定日
信徒	八九十人
管理人	六脚庄林内 丁 種
財產	廟宇及其敷地坪數不詳

沿革 現今廢止の狀態

祖師公廟

所在 六脚庄潭子墩

教別 儒教
祭神 祖師公、利王爺、李王爺、朱王爺、吳王爺

創立 天保八年

信徒 四百人

例祭 舊曆一月六日、六月十五日、八月廿三日、九月十五日

爐主 六脚庄潭子墩 王 丕

管理人 同 陳托子

財產 祠廟及其數地○甲○○九五

沿革 本廟は天保八年當地の侯寶なるものゝ發起にて僅かの費用と勞力材料の寄附に依つて建立され其後大正三年改築せるものなりと

福龍宮

所在 六脚庄潭子墩

教別 儒教

祭神 朱王爺

信徒 七十人

例祭 舊曆六月十五日

爐主 六脚庄潭子墩

管理人 同 侯 旺

財產 祠廟及其數地○甲○二七五

沿革 現今廢止の狀態

池王廟

所在 六脚庄潭子墩

教別 儒教

祭神 池王爺、祖師公

創立 年次不詳

信徒 約一千人

例祭 舊曆六月十八日

爐主 六脚庄潭子墩

管理人 同 廖 評

同 侯 鵠

同 魏 永 泉

財產 祠廟及其數地○甲七二四○

沿革 本廟は年號不詳の己亥年當地の

侯墩なるものが發起盡力して信徒より二百六十四圓を醱集し建立せるものにして農作物の豊穰と家内の安全とを祈る爲めなりと

鳳山廟

所在 六脚庄竹子脚

教別 儒教

祭神 武德英侯、蕭王、福德爺

創立 弘化元年

信徒 一千五百人

例祭 舊曆二月廿九日、三月十六日、五月十七日、八月十五日

爐主 六脚庄竹子脚

管理人 同 陳老食

財產 祠廟及其數地○甲○九七○

沿革 本廟は弘化元年陳民、陳添成の發起にて所在住民より醱金六百二十八圓を募り建築せるものなるが其後大正四年頃更に四百圓餘を募集して改築を加へたり

立天宮

所在 六脚庄竹子脚

教別 儒教

祭神 立天上帝

創立 弘化三年

信徒 八百人

例祭 舊曆三月三日

爐主 六脚庄竹子脚

管理人 同 陳文科

財產 祠廟及其數地○甲一三六五

沿革 同地江堀の發起にて弘化三年所在住民より資金百十餘圓を醱集して建立せりと稱するも其後の狀況不明なり

保安宮

所在 六脚庄後崩山

教別 儒教

祭神 天上聖母、太子爺

創立 弘化四年
 信徒 六百人
 例祭 舊曆三月廿三日、九月九日、十月十五日
 管理人 六脚庄後崩山 謝寅
 當事者 同地保正 謝長
 財產 廟及其敷地面積不詳

沿革 所在住民の安寧幸福を祈る爲め同地の謝寅なるものが發起して資金を醸集(金額不詳)して弘化元年建立したるも其後漸次破損せしを以て明治四十四年十二月釀金二百八十圓を集めて改築せりと

順天宮

所在 六脚庄六脚

教別 儒教
 祭神 李王爺、池王爺、吳王爺、太子爺
 創立 明治九年
 信徒 約貳千人
 例祭 舊曆四月十七日、六月十八日、九月十五日、九月九日
 爐主 六脚庄六脚 吳亨
 管理人 同上 楊住
 當事者 同保正 張有
 同 張會
 同 呂票

財產 祠廟及其敷地甲數不詳

沿革 本廟の主神李王爺は其昔六脚佃と竹子脚部落民と不和なりし頃之れが調停を祈願して靈顯ありければ六脚佃の呂天現發起となり信徒一同より二百〇九圓を集め部落民の無事を祈る爲め創立せるものにして其後の狀況不明なり

池王廟

所在 六脚庄下双溪

教別 儒教
 祭神 池王爺、利王爺、娘媽
 創立 年次不詳
 信徒 百五十人
 例祭 舊曆六月十八日

爐主 六脚庄下双溪 林水
 管理人 同 劉再
 財產 祠廟及敷地〇甲〇二〇〇

沿革 當部落民が安溪厝より移住し來りし際當部落にて池王爺を祈り居りしを以て一同協議の上本廟を建立したるも年次不詳にして之れに盡瘁したるは林某なりと云ふも詳かならず其後劉火等發起して部落民より釀金を募り修繕せりと云ふも之亦詳細不明なり

保安宮

所在 六脚庄下双溪

教別 儒教
 祭神 保生大帝、三府千歲、(朱、利、池)王爺、土地公
 創立 明治二十九年
 信徒 一千五百人
 例祭 舊曆三月十五日
 爐主 同 侯壬癸
 管理人 同 侯湓文

財產 祠廟及其敷地〇甲〇四五〇

沿革 當地在住民の祖先が支那より移住の際保生大帝を奉じ來り小祠を建て奉祀し居るを明治二十八九年頃農作物の豊饒なりし年同地の侯亦足なる者發起して三百十餘圓の寄附を募り本廟を改築遷祀したるものなりと

鳳山宮

所在 六脚庄灣内

教別 儒教
 祭神 武德英侯
 創立 道光年間(約九十年前)
 信徒 三千人
 例祭 舊曆三月十六日
 爐主 六脚庄灣内 陳崑
 管理人 同 陳知丹
 財產 祠廟及其敷地〇甲四七九五、同〇甲〇九五五、池沼〇甲五一三〇

沿革 本廟の建立は今より約百年前即

ち道光年間陳總珍、陳烏番等の發起にて金一千餘圓を醴集新築し明治四十四五年頃又た有志より四五百圓を募集し修繕を加へたりと云ふも詳かならず尙ほ本廟の祭典には犬肉を供ふる慣例あるが之れは祭神武徳英侯が未だ田舎にありし時一度窃盜を働き犬に吼えられ遂に逮捕されたり然るに渠聚語して曰く吾れ神とならば必ず犬肉を喰はんと依つて犬肉を供するものなりと

永安宮

所在 六脚庄蒜頭

教別 儒教
祭神 玉皇上帝、刑、池王爺
創立 年次不詳
信徒 二千六七百人
例祭 舊曆一月九日、六月十八日、八月廿三日

廟 六脚庄蒜頭 黃天成
管理人 同 黃石承
爐主 同 黃老港
財產 祠廟及其敷地○甲三一三〇

沿革 今より九十年前庄内の黃番鳥、黃讀書、黃春郎等發起し庄民協議の上費用四五百圓を募して創立せるもの其後大正元年頃又た有志より三四百圓を醴集し改築を加へたり

觀音亭

所在 六脚庄蒜頭

教別 佛教
祭神 觀音媽、朱王爺
創立 年次不詳
信徒 百餘人
例祭 舊曆六月六日、九月十九日
管理人 六脚庄蒜頭 黃旺
財產 祠廟及其敷地○甲〇七八五

沿革 何時頃の創立なるや其費用が幾許を要したるや不明なり

護安宮

所在 六脚庄蒜頭

教別 儒教
祭神 刑王爺、池王爺、媽祖
創立 明治十年
信徒 約一百人
例祭 舊曆三月廿三日、六月十八日、八月廿三日
管理人 六脚庄蒜頭 黃慶
財產 祠廟及敷地○甲〇九七〇

沿革 本廟の創立は明治十年頃にして黃世力専ら之が創立に盡瘁し其後同二十一年庄民一同協議の上約四百圓を醴集して修繕を加へたりと

土地公廟

所在 六脚庄大塗師

教別 儒教
祭神 土地公、刑王爺
創立 約四十四五年前
信徒 七百餘人
例祭 舊曆四月十五日、八月廿三日
管理人 六脚庄大塗師 侯北貞
財產 祠廟及敷地○甲二一七五、同○甲四六〇

沿革 本廟の創立は今より四十七八年前にて同地の侯明なるもの専ら其事に當り又た二十年ばかり前侯懸龜等發起して有志より費用約二百圓を募集して改築を加へたり縁起其他不明

德龍宮

所在 六脚庄溪墘厝

教別 儒教
祭神 三王爺(刑、李、朱將軍爺、關帝爺、太子爺、土地公)
創立 咸豐元年
信徒 約二千人
例祭 舊曆一月十九日、七月十四日
爐主 六脚庄溪墘厝 侯雖

同 同 侯 兵
 同 同 侯 陳 城
 管理人 同 侯 木
 財產 祠廟及敷地○甲一六一五

沿革||本廟は従前竹柱の小祠なりしも偶々悪疫流行の際其熄滅を祈願したるに靈顯ありたれば咸豐元年當地の侯舉なるもの當庄並に潭子壠、大塗師等の侯姓の者に謀りて本廟を建立せり其後明治四十年侯顯なる者庄民と謀り釀金百圓と勞力材料の寄附を受けて修繕を加へたりと

上帝爺廟

所在 六脚庄六斗尾

教 別 儒教
 祭 神 玄天上帝
 創立 不詳
 信徒 三百餘人
 例 祭 舊曆三月三日
 爐 主 六脚庄六斗尾 侯 老 棟
 管理人 同 蕭 全
 財產 祠廟及敷地○甲○○九〇、同○甲〇四二、畑○甲四八三五

沿革||本廟の創立緣起等は一切不明なり只だ今より二十三年前修繕を加へたる時は當地蕭桐が發起人となり費用二百圓を要したるが其費用は部落の有志に割充てゝ寄附を募れりと

五福宮

所在 六脚庄蘇厝寮

教 別 儒教
 祭 神 池王爺、土地公
 創立 年次不詳
 信徒 千五百人
 例 祭 舊曆四月十四日
 爐 主 六脚庄鹽水埔 蘇 師
 管理人 同 吳 頂 安
 財產 畑一甲三四七〇、同○甲六〇〇〇、祠廟及敷地○甲〇三三五、同○甲〇

沿革||本廟の創立緣起等一切不明なり其後大正四年九月蘇猫獅、蘇乞、蘇財等發起となり同庄有志より金九百餘圓を集め改築せり

福德爺廟

所在 六脚庄崙子

教 別 儒教
 祭 神 福德正神
 創立 同治庚午年
 信徒 五百人
 例 祭 舊曆一月十五日、三月十七日、八月十五日
 爐 主 六脚庄崙子 洪 藏
 管理人 同 蘇 懿
 財產 祠廟及敷地○甲七六〇、同○甲二五〇

沿革||本廟は同治庚午の年發起人洪碧、蘇媽居等費用百八十餘圓を醴集して創立せるものにして其後今より十七八年前蘇溪發起人となり有志より金三百餘圓を募り修繕を加へたるものなりと

富安宮

所在 東石庄副瀨

教 別 佛教
 祭 神 觀音佛祖、朱王爺、五年王爺、范王爺、伍王爺、(義愛公)、蘇王爺、太子爺、註生娘々
 創立 光緒己卯年
 信徒 一千五百人餘
 例 祭 舊曆四月八日、十月不定日
 管理人 缺員

沿革||本廟の主神は光緒己卯年に崗山岩てふ所より布袋嘴に遷祀されたるを當地の黃定なるものが布袋嘴の本尊に詣り分香を受け來りたるに祭神の靈顯著しして庄民協議の上本廟を建立したる者にして黃漏、李審、林余、柯全等専ら其事に執掌し經費二千三百圓を庄民より醴集し

其資に充てたりと

慶福宮

所在 東石庄港墩厝

教別 儒教
 祭神 松王爺
 創立 百三十四年前
 信徒 六百人
 例祭 舊曆四月四、五、六日
 爐主 東石庄港墩厝 林 然
 同 孫 水 文
 管理人 同 蔡 崎
 財產 祠廟及敷地〇甲一九二

沿革 往時當部落に大榕樹あり之れに觸れ又は此枝を折るものあれば忽ち腹痛を起して死に至るもの少ならず住民稱して靈木と崇めけるが今より百四十年前遂に枯死するに至りたれば住民同榕樹を以て神像を刻み現在の王棍の祖先王發なるものが暫らく自宅に祀り約一年許りの後草葺の小祠を建て後更に瓦葺の廟を建立したるが之亦た天災に倒壊したれば光緒七年庄民協議の上工費三百四十圓を集め現在の廟宇を再興せりと

絨蟻婆宮

所在 東石庄頂東石

教別 儒教
 祭神 絨蟻婆
 創立 明治四十四年
 信徒 約二百人
 例祭 舊曆七月十五日
 管理人 其他缺員

沿革 往時當地吳絨と稱する貧家あり一族死に絶えたれば吳絨と同姓の者相謀りて其靈を祀りたるが其後家屋も倒壊したれば吳等、吳曲、吳選等協議の上明治四十四年寄附金四十圓を集め本廟を建設して之を祀る事としたるものなりと

信媽廟

所在 東石庄頂東石

教別 儒教
 祭神 別に祭神なきも咬者の靈魂を祀る
 創立 不詳
 信徒 四十人

沿革 本廟は約百年前の創立なりと稱するも狀況不明なり本廟には祭神と稱する者なく只だ庄内にて一族死絶え祭祀を行ふものなき者の靈を祀れり大正四年庄内吳翁の長男吳天賜重患に罹り醫藥に手を盡し神佛の加護を祈れども更に其効見えざりしが或る時吳翁本廟に祈願し長男の病氣快復せば本廟を新築すべしと約したるに日ならず全快したれば大正四年吳翁金五十圓を投じて改築せしも今は殆んど廢止の状態に在り

先天宮

所在 東石庄頂東石

教別 儒教
 祭神 包府王爺、太子爺、福德正神、虎爺、千里眼、順風耳、保生大帝、李、朱、吳、池、范各王爺、廣澤尊王、池府王爺
 創立 康熙年間
 信徒 三千人
 例祭 舊曆二月一日、三月十五日、三月廿四日、四月廿六日、六月六日、六月十五日、六月十八日、八月廿五日、九月九日、九月十五日、十二月廿一日

管理人 頂東石 吳 躋

沿革 康熙年間吳姓、黃姓、蔡姓等の祖先が支那より移任の際保生大帝を奉じ來り福隆宮と稱する一小祠を建て奉祀せるが其後住民の増殖に従ひ支那との商取引開始、澎湖島の漁船出入等漸次増加し其船員の航海安全を祈るもの又た多きを

加へたれば明治十年庄内吳針、黃相、吳踏等庄民と協議し從來喜捨金の蓄積四百圓と新に寄附金五百圓を募集して廟宇の擴張改築を行ひ更に大正四年吳踏、吳志、吳振、吳爵、吳海知、黃塔、吳係、吳徽等庄民と協議の上東石港支廳管内より寄附金五千圓を募集し大改築を加へたるものなり尙其他の祭神は南鯤鯨廟其他より分香し來れるものなりと

祖師公廟

所在 東石庄山寮

教別 儒教
祭神 祖師公、池王爺、太子爺、五年王爺
創立 文政八年
信徒 六十人
例祭 舊曆六月十八日、九月九日、十月六日(五年に一回)
管理人 財產其他不詳

沿革 文政八年頃蔡天、蔡匏、蔡寮の兄弟三人が始めて墩仔庄より開墾の爲め移住し來りし時先つ以て小祠を建て、土地公を祀りたり其の後子孫繁殖して部落を爲すに至り他の祭神をも迎え祀る事としたるものにて其後明治二十九年庄内の蔡姓の者より寄附金九十圓を集め現在の如く改築せりと

福靈宮

所在 東石庄三塊厝

教別 佛教
祭神 觀音佛祖
創立 同治十年
信徒 一千二百人
例祭 舊曆二月十九日、六月十九日
管理人 東石庄三塊厝 蔡寶
財產 祠廟及敷地○甲五〇〇〇

沿革 今より百三十四十年前庄民蔡勅なる者の祖父が赤山巖の觀音廟より分香し來り自宅に祀りたるを其後三十年を経て

同庄の蔡勅、蔡派、蔡仁等庄民と協議し北寄りに一廟宇を建立したるが其後暴風雨に遭ひ廟宇倒壊したるを以て蔡思高、呂城、高使、蕭溜等の有志相謀り約七百圓の寄附を募り再興せるは明治四十年なりきと

永靈宮

所在 東石庄屯子頭

教別 儒教
祭神 李王爺
創立 咸豐六年
信徒 五六百人
例祭 舊曆四月廿六日
管理人 東石庄屯子頭 張添
爐主 同上 李貫
財產 祠廟及敷地面積不詳

沿革 往時當部落は年々洪水の厄に逢ふ事屢々なりければ咸豐六年庄内の某親しく南鯤鯨の李王爺を分香し來り庄民協議の上現在の地域に一小廟宇を建て、之を祀り洪水除難を祈願せり當時蔡丁元、蔡河等専ら之れが創立に盡瘁したるが其後光緒二十四年暴風雨の爲め大被害を受けたれば同地の李貫、黃氏涼等再び庄民の出捐を仰ぎ金百八十五圓を投じて改築を加へ現今に至れりと

祝天宮

所在 東石庄海埔

教別 儒教
祭神 鄭國姓、二國姓、太子爺、金子爺、刑王爺、池王爺、張王爺、婦人媽
創立 同治四年
信徒 約五百人
例祭 舊曆一月十六日
管理人 東石庄海埔 洪良

沿革 今より百五十年前庄民の一人が支那より分香し來り自宅に祀りたるを同治四年庄民協議の上鄭梓、鄭烏秋、鄭吟、

曾雷等發起者となり庄民より金二百圓を募り本廟を建立せり、同地は往時洪水の難あり且つ屢々悪疫流行せるが本廟建立以來其災厄を免かるゝに至れりとして信仰するもの多しと

福安宮

所在 東石庄型厝寮

教別 儒教
祭神 福德爺、虎爺、註生娘々、三哥仔
創立 天保十二年
信徒 九百人
例祭 舊曆三月廿八日、四月一日、四月十五日、四月廿六日、六月六日、八月十五日、九月五日、九月九日、九月十五日、十一月八日

管理人 東石庄型厝寮 蔡 同

沿革 天保十年頃庄内の有志協議の上南鯤鯓保安宮より五府王爺を迎え小祠を建て奉祀せるが年所を経る事久しく明治三十六年頃自然に倒壊したるを以て明治四十一年蔡竅嘴、黃合等相謀り庄内より寄附金一千餘圓を募集し之を再興せりと

姑婆媽宮

所在 東石庄型厝寮

教別 儒教
祭神 姑婆媽
創立 明治十九年
信徒 百六七十人
例祭 一定せるものなし

沿革 本祭神は明治十九年頃まで型厝寮黃某方に奉祀しありしが同家は悪疫の爲め死絶え今は祀る者もなく放棄しありしを或る年又々同地に悪疫流行したれば庄民他の祠廟に除疫を祈願せるに之れ一家斷絶の黃某方の祭神を放棄し在る爲めなりとの神託あり依つて同姓の關係上同

地の黃程、黃乞食、黃修等發起となり同年取敢す一小廟宇を建立して之を祀りたるに悪疫間もなく熄みたり後明治二十四年廟宇狹隘に付き黃形發起にて舊廟宇の東北に一棟を増築せるも今は再破して廢止の状態に在り

靈慈宮

所在 東石庄栗子崙

教別 儒教
祭神 鄭姓王、李王、刑王、吳王、土地公、李太子
創立 乾隆四十五年
信徒 約一千人
例祭 舊曆一月十五日、四月十五日、十月十五日

爐主 東石庄栗子崙 姚 定
管理人 同 鄭文瑞

沿革 本廟は乾隆四十五年栗子崙の林三全、鄭形、姚敏發起となり同庄及び附近の數庄より寄附金を募りて創立したるものにして其後光緒六年鄭連陞、林尊覽、唐岩等發起となり又々寄附金五百餘圓を募集し大改築を加へたるものにして祭神鄭聖王は臺南より分香し來りしものなりと

福安宮

所在 東石庄後埔

教別 儒教
祭神 林婦人、陳婦人、李婦人
創立 約七十年前
信徒 約百名
例祭 舊曆九月九日、十月廿七日
爐主 東石庄後埔 顏 猷
管理人 同 吳 枝

沿革 本廟に關しては其詳細を知る者なきも今より百七十年前當庄の林玉觀なる者の發起に依り庄内より寄附金を募り廟宇を建立し祭神を支那より迎へ祀りた

るものにして其後明治六年頃吳灰、吳槐等の發起にて庄民協議醸金二百圓を投じて改築せりと云ふ祭神林、陳、李の三婦人は往時支那内地の大戦争に女ながらも軍に従つて敵軍を破り大功を樹てたるものなりと

鎮安宮

所在 東石庄掌潭

教別 儒教

祭神 李王、大王、池王、朱王、三王

創立 明治十六年

信徒 約五百人

例祭 舊曆四月十五日、六月十六日、十月十五日

管理人 東石庄掌潭

財產 祠廟及敷地面積不詳 戴雄

沿革||本廟は明治十六年同庄の戴崩なる者の發起にて庄内より醸金を募り南鯤鯨廟より分香し來りて建立せるものにして大正元年の暴風雨に大破せるを以て同庄の戴灯、戴猜等發起し庄民より寄附金五十圓を募り修築を加へたるものなりと

土地公廟

所在 東石庄港墩

教別 儒教

祭神 土地公

創立 約百四十年前

信徒 約三百五十人

例祭 舊曆一月十五日、八月十五日

管理人 港墩 梁串

沿革||本廟の創立は約百四十年前にして當庄の陳郎發起となり庄民と協議の上農作物の守護神として建立祭祀せる者にして其後明治四十四年暴風雨の爲め倒壊したれば又々庄民協議の上寄附金五十圓を募り修繕を加へたるものなりと

慈惠宮

所在 東石庄州子

教別 儒教

祭神 五王爺(李、利、朱、吳、范)土地公、太子爺、媽祖

創立 約六十年前

信徒 約千人

例祭 舊曆四月九日、六月十八日、九月九日、九月十五日

管理人 東石庄州子 陳盤

沿革||本廟は今より約六十年前同庄の劉楊世話役となり庄内の平安を祈る爲め庄民と協議の上醸金を募り創立したりと云ふの外知る處なし

松湖宮

所在 東石庄下蔦松

教別 儒教

祭神 李、利、池、三、范の五王爺、媽祖、土地公

創立 明治四年

信徒 三百五十人

例祭 舊曆六月十八日、八月廿三日

爐主 東石庄蔦松 余程

管理人 同 黃份

沿革||現今廢止の狀態

連天宮

所在 東石庄双連潭

教別 儒教

祭神 何王爺、朱王爺、劍童、媽祖、土地公、玄天上帝、判官、康趙元帥、李太子、急使

創立 約二百年前

信徒 約百人

例祭 舊曆十月十五日

沿革||現今廢止の狀態

靈鑿宮

所在 東石庄鰲鼓

教 別 儒 教
祭 神 張王爺、李王爺、池王爺
創 立 昭和五年新創立
信 徒 約六百人
例 祭 舊曆一月廿七日、九月廿三日
管理人 東石庄蔡鼓 蔡 添

沿革 本廟は往時虎會寮と舊蔡鼓の兩部落が併合の際庄内に一廟宇もなきは庄内の平安を祈願する上に遺憾なりとし蔡納なる者發起して庄民と謀り廟宇を建設し同人の從來奉祀せる祭神を遷祀したるものなるが其後殆んど破損して顧みる者なかりしを昭和五年蔡添發起して新たに廟宇を建立し更に祭神を爰に遷祀し廟名も張王廟を改めて靈鑿宮と稱する事としたりと

港口宮

所在 東石庄蚰子寮

教 別 儒 教
祭 神 天上聖母、觀音媽、千里眼、順風耳、註生娘々、善才、良女、玄天上帝、太子爺、福德爺
創 立 約三百年前
信 徒 約三千人
例 祭 舊曆三月廿三日、七月十五日、九月九日
管理人 東石庄蚰子寮 林 放
財 產 不詳

沿革 本宮主神天上聖母は北港の媽祖より古き由緒を有す即ち初め北港街の某支那に赴きしに支那にて病魔に冒され藥石効なく九死一生の境に頻せし時湄洲媽に祈願せるに靈顯著しく間もなく病癒えたれば歸國に際し同媽を奉遷し當地に上陸滞在中樹幹に假祀し歸宅の際之を奉持せんとしたるも媽祖は樹幹より離れず神籤に伺ひしに「我は此地以外に移轉するを欲せず」とありけたば止むなく祭神を此地に祀り歸宅せり其後庄民協議の上廟

宇を建立し之に遷したるが參詣者多く廟宇狹隘を告ぐるに至りたれば嘉慶十九年鹽水、朴子、北港其他一般より約一萬圓の寄附を募り改築せしものなりと云ふ

溫王廟

所在 東石庄後子下

教 別 儒 教
祭 神 溫王爺、元帥爺、開山聖王
創 立 約三百年前
信 徒 四百人
例 祭 舊曆四月廿六日、九月十五日

沿革 三百年前より草葺の一小祠なりしも自然腐朽倒壊したれば庄民協議の上釀金二百圓を投じて明治九年再築したりと云ふも詳細不明にして而かも現今廢止の状態に在り

池王廟

所在 東石庄揖子寮

教 別 儒 教
祭 神 太子爺、福德爺、玄天上帝
創 立 文久二年
信 徒 百五十人
例 祭 舊曆三月十五日、六月十八日
管理人 林石揖子寮 張 朝

沿革 本廟は文久二年同地の張印、張風二人の斡旋に依り建立されたるものなるも大正二年の水害に倒れたれば同庄の張朝、林敬等發起して修繕を加へたりと詳細不明

員山宮

所在 鹿草庄鹿草

教 別 儒 教
祭 神 王孫大使、大公
創 立 乾隆二十年
信 徒 千餘人
例 祭 舊曆一月十五日、五月五日
管理人 鹿草庄鹿草 亡 陳 國 珍

同 亡陳欣
同 同陳製
同 同陳新科
財 田○甲二〇一五、同一甲一八七〇、
年收益約二十五圓

沿革||康熙の初年陳國詐外三名此の神像を携へて渡臺し當地にて開墾に従事し爾來當村の守護神として有志協議の上廟宇を建立し之を奉祀する事となりたり其後光緒二十一年に至り陳國珍、陳欣、陳力、陳新科、陳瓜、陳昇等の有志發起して經費金千六百圓を庄内より醜集し大修繕を加へたるが大正二年又た〜暴風雨の被害ありたれば二百二十圓の經費を庄民に募り修繕を加へたりと

福安宮

所在 鹿草庄山子脚

教 別 儒教
祭 神 千歲爺、刑府千歲
創 立 明治四十二年
信 徒 約三百人
例 祭 舊曆六月十八日
管理 人 陳重

沿革||不詳現今廢止の状態に在り

慈雲寺

所在 鹿草庄下半年

教 別 佛教
祭 神 觀世音、善才、夏女
創 立 同治二年
信 徒 約百五十人
例 祭 舊曆二月十九日、六月十九日、九月十九日
管理 人 鹿草庄下半年 張成

同 張達
同 江清流
同 高資
同 林曾文
同 田○甲八〇三〇、田○甲六八八五、
田一甲三〇五五、外に祠廟敷地三分

一九五圓あり

沿革||今より約百年前村民陳敬觀音像を求めて奉祀せるに靈顯ありとて所在住民も漸次信仰し始めたるより庄の北端に一小廟宇を建立して之を奉祀したるが地震の爲め倒壊したれば同治二年庄民協議の上工費八百六十圓を募りて庄の中央に移築し後明治四十二年又工費百二十圓を投じて之に修繕を加へたりと雖も現今廢止の狀況になり

城隍廟

所在 鹿草庄中寮

教 別 儒教
祭 神 城隍爺、大爺、二爺、觀音媽、李池府千歲、城隍婦人
創 立 乾隆四十年
信 徒 千五百餘人
例 祭 舊曆五月廿七日、五月廿八日
廟 鹿草庄中寮 張文陳
管理 人 同 張計
同 張丕
財 產 田○甲三〇八八、同○甲一一〇五、
田○甲四六〇〇、外に祠廟及敷地若干あり

沿革||康熙年間張且なる者支那より渡臺の際携へ來りて祀るに靈顯あり村民亦た靈神として崇ひ協議の上廟宇を建立す其工費千六百餘圓は五六の信者専ら之を負擔せり其後咸豐二年廟宇破損甚だしかりければ張永成等發起して庄内より金七百圓を募り大修繕を加へたりと

海王宮

所在 鹿草庄海豐

教 別 儒教
祭 神 五府千歲
創 立 光緒十五年
信 徒 約四百人
例 祭 舊曆八月廿二日、九月十三日

管理人 鹿草庄海豐 王 挽
沿革 光緒十五年祭神を七鯤鯨より分香し來り庄の守護神として一小廟宇を建立して奉祀せり然るに其後洪水の爲め倒壊したれば王挽發起して庄内より寄附を募り之を改築せり創立當時の費用は約百二十圓改築には三十圓を要したりと

廣安宮

所在 鹿草庄麻豆店

教別 儒教
祭神 溫陵媽、千里眼、順風耳、太子爺、祖師公、王得祿、土地公、田元帥
創立 大正二年
信徒 二百六十人
例祭 舊曆三月廿三日、五月廿二日、十月十日
管理人 鹿草庄麻豆店 蘇 祥

沿革 咸豐七年本廟の神像を造り洪芳方に奉祀せしが明治四十二年百斯篤流行の際其平癒を祈願せん爲め庄民協議の上洪芳、王希、蘇祥等發起となり庄内より約六百三十圓の寄附を募り大正元年起工大正二年竣工せるものなりと

樹德堂

所在 鹿草庄後堀

教別 儒教
祭神 陳聖王、舍人公、城隍爺、虎爺
創立 光緒十二年
信徒 約四百人
例祭 舊曆四月十六日、九月九日、十月十日より十四日迄
管理人 鹿草庄後堀 陳國華
財產 畑一甲六一八三、田〇甲〇八三〇、年收益五十七圓

沿革 今より約百年前當地の陳抵なる者渡臺の時支那より携へ來り陳姓の者の祖神として陳國華方に祀りしが光緒十二年陳姓の有志發起して庄内住民より金千

三百二十圓を醴集して本廟を創立したるものなりと

鐘福宮

所在 鹿草庄後堀

教別 儒教
祭神 五府千歲爺、張法子、蕭法子、土地公
創立 咸豐五年
信徒 三百五十人
例祭 舊曆一月十五日、六月十八日、九月十五日
管理人 鹿草庄後堀 陳元爵
爐主 同 謝海
同保正 陳興
財產 畑〇甲四六六〇、養魚池〇甲一八二〇

沿革 本廟の祭神は今より七十年ばかり以前當庄の陳研なる者が東石港七鯤鯨より奉じ來り祀り居たるを咸豐六年同地の蔡火が發起して一廟宇を建立し之を遷祀せり其後咸豐六年同地有志高老等發起して寄附金千二百餘圓を集め大改築を加へたるが其後洪水の爲め破損したれば庄民相謀り醴金六百三十圓を集めて大正二年大修繕を加へたりと

華封堂

所在 鹿草庄施厝寮

教別 儒教
祭神 星主尊王、李府千歲
創立 乾隆十四年
信徒 約六百人
例祭 舊曆一月八日
管理人 施厝寮 施根元
財產 池沼〇甲五一六〇、原野〇甲一四八五、畑一甲一九九〇、同〇甲四七五〇、田〇甲四八五〇、畑〇甲七八六五、原野〇甲〇三一六、畑〇甲七五二五、田〇甲一〇二五

沿革 康熙年間當地施姓一族が移住の際祖神として携へ來り子孫の宅に奉祀し

たりしが乾隆年間土匪李龍を施姓の者捕縛したるより之れ祖神の靈顯なりとて施天生發起して廟宇を創立せしが其後乾隆十五年施化育、施業品等の發起にて千二百圓を募り廟宇の大改築を行ひ更に同治十年庄民協議の上七百圓を捐金して又々修繕を加へたりと

保安宮

所在 鹿草庄竹子脚

教別 儒教
祭神 吳府千歲爺、福德正神、虎爺、保生大帝

創立 不詳

信徒 千二百人

例祭 舊曆四月十五日

管理人 鹿草庄竹子脚 蔡合任

沿革 初め同地の某が南鯤鯓より分神し來り神像を刻んで庄民輪番に持ち廻りて祭祀を行ひ來りたるが後一小廟宇を建て之を奉祀せるも其年代不明なり其後光緒二年鄭舍の發起にて資金を募り大改築を行ひ更に明治四十三年蔡認陳伐紂等の發起にて改築を加へたるも其費額明かならずと

上帝廟

所在 鹿草庄竹子脚

教別 儒教
祭神 上帝爺、吳將外二體、觀音佛祖、土地公

創立 年次不詳

信徒 一百人

例祭 舊曆一月三日、三月三日、七月廿七日

爐主 後壁庄安溪寮 蕭旺

管理人 同竹園後 蕭德

財產 田〇甲〇六三五、同〇甲二五五〇、同〇甲二三一五、此年收益二十圓

沿革 初め鄭成功の本島渡臺の際蕭國王なる者本祭神の神符を支那より携へ來

り奉祀したるを後神像を刻み神符を納め廟宇を建立して之を遷祀する事としたるものなれども創立費額其他不詳、然るに其後本廟は震災に倒れたれば李象、沈進、蕭音、蕭禮等發起となり所屬財産の蓄積金五百圓を投じて大正元年再興せしも今や又々廢頽して祭祀を爲すものなし

龍湖宮

所在 鹿草庄頂潭

教別 儒教
祭神 三代浮佛、媽祖、清水祖師、福德正神

創立 道光十七年

信徒 八百人

例祭 舊曆一月十三日

管理人 鹿草庄頂潭 林逢

沿革 本宮は道光十七年林己臣林光勳等の發起にて創立され祭神には頂潭庄民の祖先が渡臺の時本國より奉じ來りたるものを奉祀したるが明治二十三年廟宇破損して改築の必要に迫られたれば庄民協議の上工費約四百圓を醸出して修築を加へたりと

林氏祖祠

所在 鹿草庄頂潭

教別 儒教
祭神 常春公、福德正神、宗親附屬神位

創立 乾隆年間

信徒 約一千人

例祭 舊曆一月十五日、十一月冬至

管理人 鹿草庄頂潭 林芸

財產 田〇甲六二〇〇

沿革 本廟は乾隆年間の創立にして當時林姓の有志が千餘圓を出捐して堂宇を建立し神像を安置して祭祀を行ふ事としたるが其後明治八年林代なる者に依つて改築を加へられ更に大正元年林芸の發起にて庄内外の林姓より釀金七百圓を募り

鹿草庄

所在 鹿草庄下澤

教 別 儒教
 祭 神 池府王爺、太子爺、沈府天使、媽祖、土地公
 創立 咸豐十一年
 信 徒 二十人
 例 祭 舊曆二月十五日、十月十五日
 管理 人 鹿草庄下澤 鄧 營

沿革 本廟建立以前は竹柱の小祠に祭神を祀りたるが咸豐十一年徐使、吳斗、蘇國等發起し庄民と協議の上工費五百圓を募りて本廟を建立せり其後明治三十七八年頃沈田、張見智、翁貴等の斡旋にて工費約百圓を集めて修繕を加へたりと

三山國王廟

所在 鹿草庄龜佛山

教 別 儒教
 祭 神 三山國王、鄭國姓、土地公、虎爺、李名陞
 創立 年次不詳
 信 徒 七百餘人
 例 祭 舊曆二月廿五日、同月廿六日
 管理 人 龜佛山 李 王
 財 産 田畑合計約十四甲餘小作料年收約千圓餘後、大正四年農租設定登記

沿革 本廟の創立に關しては何等知る者なく一切不詳、只だ嘉慶二十五年李名陸なる者が單獨出金して本廟の修理を行ひ且つ死後其私財土地十八甲歩を本廟に寄附せり其後明治十六年頃大改築を加へたるも其工費千餘圓は其所屬財産の蓄積金を以て充當せりと

五 谷 王 廟

所在 鹿草庄埔心

教 別 儒教

開基 嘉慶十
 祭 神 大正元年
 信 徒 二百餘人
 例 祭 舊曆四月廿九日
 管理 人 鹿草庄埔心 呂 孫

沿革 本廟の祭神は庄民の一人が大鹿より採り來り其家の一隅に居り居りたるを庄民協議の上呂家龍、呂清風等發起人となり庄内より約二百五十圓を集め大正二年本廟を建立して遷祀したるものと

鹿 美 宮

所在 布袋庄布袋

教 別 儒教
 祭 神 大老爺、魚童、神童
 信 徒 約二十人
 例 祭 舊曆六月十五日
 管理 人 布袋庄布袋 蔡 興

沿革 道光年間年次不詳庄民協議の上庄内に怪鬼侵入せざる様祈願する爲め資金を集めて本廟を建立せりと云ふも詳細不明なり尤も祭神魚童神童は靈性の管理を爲す神と稱せられ何れも郊外に建立するを例とす

大 正 廟

所在 布袋庄布袋

教 別 儒教
 祭 神 大老爺、東王
 創立 咸豐三年
 信 徒 百十人
 例 祭 舊曆五月十七日
 管理 人 布袋庄布袋 蔡 興

沿革 咸豐三年同地の蕭財發起人となり附近の同姓より醮金八百圓を募り祭神は支那の東石より分請し來り本廟を建立して安置せる者なりと

東宮廟

所在 布袋庄布袋

教別 儒教
 祭神 李哪吒、太子爺、陳王爺
 創立 光緒十二年
 信徒 五百人
 例祭 舊曆九月九日
 爐主 布袋庄布袋 蔡 亮

沿革 本廟の祭神は支那の東石より分請し來れる者にして光緒十二年方住なる者發起して庄民より寄附(金額不詳)を募り本廟を建立奉祀したる者なるが大正三年暴風雨の爲め倒壊したるを以て大正三年布袋庄の有志者相謀り金五百五十圓を出捐して改築せるものなりと

嘉應廟

所在 布袋庄布袋

教別 儒教
 祭神 九龍三公、大舍、吳王、城王、土地公
 創立 乾隆年間
 信徒 三千人
 例祭 舊曆四月十五日、五月四日、八月十五日
 爐主 布袋庄布袋 蔡 斗
 同 蔡 觸
 同 蔡 牛 昌

沿革 本廟は乾隆年間同地の蔡沙なる者が發起人となり同庄民より寄附を募り廟宇を建立すると共に支那東石より祭神魏元公を分請し來りて奉祀せる者にして其後年所を経るまゝに自然破損し修築の必要に迫られたれば光緒十六年庄民協議の上有志より釀金二千五百圓を集め改築を爲したるものなりと

永安宮

所在 布袋庄布袋

教別 道教

祭神 張元帥、池王爺

創立 明治十二年

信徒 五十人

例祭 舊曆十月一日

爐主 布袋庄布袋 周 榜

沿革 本廟の創立は明治十一年にして周姓の祭祀する祠とす、初め發起人周開なるもの支那の東石より祭神を分請し來り偶ま隣接の前東港庄公館に古材料ありたれば同姓中より寄附金千二百圓を集め其古材を購入し本廟を建立して奉祀せるものなりと

見龍宮

所在 布袋庄内田

教別 儒教
 祭神 李王爺、劍童、印童、池王爺、刑王爺、土地公、境主公
 創立 光緒九年
 信徒 千餘人
 例祭 舊曆六月十八日、七月十五日
 廟守 布袋庄内田 張 圖
 爐主 同 曾 長

沿革 本廟は光緒九年蔡織、曾察、柯好、邱顏、林柘榴等發起し庄民より金千五百圓を釀集し王爺港廟より祭神を分請し來りて建立奉祀せるものにして其他の事情不明

刑王宮

所在 布袋庄内田

教別 儒教
 祭神 刑王爺、劍童、印童
 創立 明治二十九年
 信徒 五十人
 例祭 舊曆四月十五日、八月十五日
 爐主 布袋庄内田 蔡 根

沿革 本廟は内田の有志者相謀り王爺會を組織し祭神を刻み祭祀のみを行ひたるが明治二十九年蔡練甲主となり會員よ

り五十圓の寄附を受けて本廟を建立し大正元年暴風の爲め倒壊したれば又々王爺會より五十圓を出捐し本廟を改築せるものなりと

保安宮

所在 布袋庄考試潭

- 教別 儒教
- 祭神 李王爺、上帝爺、池王爺、媽祖婆、太子爺、土地公
- 創立 光緒十八年
- 信徒 二百四十人
- 例祭 舊曆三月三日
- 管理人 其他なし

沿革 本廟は同庄の蔣罩發起人となり庄内より寄附金三百圓を募り他の廢廟の古材を購入して光緒十八年創立せり主神は李王爺なり

震察宮

所在 布袋庄考試潭

- 教別 儒教
- 祭神 李王爺、池王爺、吳王爺
- 創立 光緒十四年
- 信徒 五百四十人
- 例祭 舊曆九月十五日
- 爐主 布袋庄考試潭 張乞食

沿革 光緒十四年庄民協議の上考試潭より寄附金四百圓を募り廟宇を建立し祭神は王爺港より分請し來つて奉祀せるものなりと

永安宮

所在 布袋庄前東港

- 教別 儒教
- 祭神 李王爺、池王爺、蘇王爺、吳王爺、金王爺、土地公
- 創立 咸豐元年
- 信徒 約七百人
- 例祭 舊曆十一月十五日

願廟 布袋庄前東港 邱 法
沿革 咸豐元年庄民鄭有侍等發起して王爺港より祭神を分請し來り且つ大蔡より寄附金を集め本廟を創立せりと

金華山堂

所在 布袋庄内田

- 教別 齋教(金幢派)
- 祭神 觀音佛祖、善才、良女
- 創立 光緒三十二年
- 信徒 三十四人
- 例祭 舊曆年四同日時不定
- 管理人 布袋庄内田二二 柯 榴

沿革 明治三十九年頃前管理人李維新臺南寺に於て説教を聞き大に信仰心を起し信者林氏雲、廖炭、蔡港等と謀り金五百圓を捐出して本堂を創立せりと

海國宮

所在 布袋庄前東港

- 教別 儒教
- 祭神 李王爺、池王爺、金王爺、土地公
- 創立 光緒三年
- 信徒 約七百人
- 例祭 舊曆八月十五日
- 爐主 布袋庄前東港 蔡 懸 華

沿革 本廟は光緒三年同地の郭菌等發起となり郭吟寮庄民と協議の上本廟を建立し祭神は王爺廟より分請し來れり其後廟宇自から大破したれば蔡是、邱標、邱書等庄民と協議の上金百八十圓を醗集し明治十二年修築を加へたりと

龍山宮

所在 布袋庄前東港

- 教別 儒教
- 祭神 李王爺、池王爺、朱王爺、試王爺、土地公、土地婆
- 創立 光緒四年
- 信徒 五百餘人

例 祭 舊曆十一月十五日
 理事者 布袋庄前東港 邱 祥
 沿革 光緒四年同庄民邱務發起人となり前東港より金四百圓の寄附を受け且つ庄外に廢廟となりしもの、材料ありたるを購入し本廟を建立し祭神は王爺港より分請して奉祀し同年末全く創立したるものなりと

嘉應廟

所在 布袋庄新塩

教 別 儒教
 祭 神 九龍三公、劍童、印童、大將軍、土地公、黃爺、白爺
 創立 光緒十年
 信徒 二千人
 例 祭 舊曆三月廿七日
 管理人 其他詳細不詳

沿革 本廟は明治十六年の創立にして以前は新塩九二番地に在りしが久しく修繕を加へざりし爲め殆んど崩壊せんばかりに破損したれば明治十六年同庄の蔡鮑、蘇元、黃選、洪租等發起して附近の住民より贖金二千圓を募り現在の位置に移轉改築せりと

福德爺廟

所在 布袋庄貴舍

教 別 儒教
 祭 神 福德爺、池王爺、哪吒、太子爺、利王爺
 創立 嘉慶年間
 信徒 三百餘人
 例 祭 舊曆一月十八日
 管理人 布袋庄貴舍 呂 機

沿革 本廟は今より約七八十年前の創立にして初め當庄の某が南鯤鯓廟より分香し來り自宅に安置せるものを庄民協議の上木像を刻みて之に納め且つ庄民の贖金四百五十圓を以て本廟を建立し庄民一同にて祭祀する事としたるものにて廟宇

の起工は丙辰年十月竣工は丁巳年三月なりしと云ふ

建德宮廟

所在 布袋庄過溝

教 別 儒教
 祭 神 李王爺、池王爺、哪吒、太子爺
 創立 百八十年前
 信徒 約三千人
 例 祭 舊曆十月十六日
 仕者管理人 布袋庄過溝 王 侯

沿革 道光年間庄民某庄内婦女の安産を祈願せん爲め南鯤鯓廟より分香し來り之を自宅に祀れり然るに庄民其靈顯の著しきに感じ王定拜發起となり附近の各庄より贖金一千三百數十圓を集め光緒元年現廟宇を建築し本祭神を祀る事としたるものなりと

保安宮

所在 太保庄太保

教 別 儒教
 祭 神 保生大帝、太子爺、康元帥、趙元帥、六賽、粟母王、李王爺、土地公、虎爺
 創立 年次不詳
 信徒 二百五十名
 例 祭 舊曆三月十五日
 廟 太保庄太保 洪 猷
 管理人 同 楊 桂 康
 財產 池沼○甲三二七〇、原野○甲〇三四〇

沿革 本廟の主神保生大帝は太保庄の楊姓の祖先始めて支那より來りし時携へ來り現在の處に廟宇を建て奉祀せり其後水師提督伯爵王得祿私財を投じて道光十四年之を改築したるが明治三十九年の震災に破損したれば雷樹、楊君等發起して寄附金百二十圓を集め明治四十四年修繕を加へ更に大正二年所屬財産の畑地を賣却して重修を加へたりと

福 濟 宮

所在 太保庄太保

教 別 儒教
 祭 神 七娘媽、雷電風雨の四神、地藏王、三山國王、土地公、關帝君
 創 立 雍正元年
 信 徒 約千人
 例 祭 舊曆一月十五日、二月廿五日、七月七日、七月廿八日、十月十五日
 管理 人 太保庄太保 陳 淪
 同 同 陳 肯
 同 同 陳 榮
 財 產 畑八甲四四六〇、田一甲八五八五、祠廟敷地〇甲一二五五、年收約七十圓

沿革 康熈元年頃太保庄張姓の祖先が支那より七娘媽を奉じ來り自宅に安置したるを庄民相謀りて雍正元年庄の中央に一小廟宇を建立して之に奉祀せるが其後嘉慶十七年時の水師提督伯爵王得祿私財一千圓を投じて現在の位置に改築し同時に他の祭神をも配祀せり然るに明治三十九年の震災に大破したれば王棟梁、王順記、傅肯等發起となり工費二百二十圓を募り明治四十二年修繕を加へたりと

東 安 宮

所在 太保庄東勢寮

教 別 儒教
 祭 神 城隍爺、太子爺、土地公
 創 立 年次不詳
 信 徒 約四百人
 例 祭 舊曆五月廿八日、十月十四日
 管理 人 太保庄東勢寮 朱 裕

沿革 本廟は創立の沿革不明なるが以前は草葺の小祠に祀りたるを明治四十年龔輝、龔騰、龔決然等發起となり庄内より寄附金四百八十圓を集め現廟宇を新築せりと

保 安 宮

所在 太保庄新埤

教 別 儒教
 祭 神 保生大帝、福德爺
 創 立 雍正十一年
 信 徒 約六百人
 例 祭 舊曆三月十二日
 爐 主 太保庄新埤 蘇山知
 管理 人 同 鄭 勝
 財 產 原野〇甲一二六五、同〇甲〇一二五、畑〇甲六三六五、現金四十六圓、年收約十二圓

沿革 始め趙啓陳隔等支那より移任の際本祭神を奉持し來りて自家に奉祀したるに靈顯ありとて庄民多數の信仰を得遂に雍正十一年庄内信者より資金を募り小宇を建立し之に遷祀したるが其後道光二年王得祿の寄進五百圓を得て更に之を改築せるが明治三十九年の地震に大破せるを以て所屬財産の一部を支出して明治四十四年修繕を加へたりと

福 安 宮

所在 太保庄田尾

教 別 儒教
 祭 神 祖師公、福德爺、李王爺、媽祖、保生大帝
 創 立 道光十三年
 信 徒 約五百人
 例 祭 舊曆一月廿八日、同廿九日
 管理 人 太保庄田尾 黃水馮
 財 產 祠廟及敷地〇甲一四二〇

沿革 黃姓の祖先が支那より移住の際奉じ來りしを庄民相謀り道光十三年廟宇を建て奉祀せり然るに明治三十九年の大地震に大破したれば陳龍、黃傳、黃水連發起にて同庄内より金五百圓を募集し明治四十三年大修繕を加へたり

福興宮

所在 太保庄溪南

教別 儒教

祭神 媽祖、三王爺(朱利李)

創立 年次不詳

信徒 二百人

例祭 舊曆三月廿二日、三月廿三日、四月廿四五六日中一日

管理人 太保庄溪南

陳 降

沿革 本廟は元庄の北方牛稠溪の流域にありしが流失の難に逢ひたれば庄民協議の上當庄百三十六番地に再築せるに之れ亦た明治三十九年の地震に破損したれば吳天、陳建成等發起して庄内より工費百五十圓を募集し明治四十三年之を再興せりと

龍潭宮

所在 太保庄後潭

教別 儒教

祭神 三山國王、玄天上帝、福德爺、保生大帝、女娼娘々

創立 約二百五十年前

信徒 約五百人

例祭 舊曆二月廿五日、八月十五日、十月十五日

管理人 太保庄後潭

陳 清 寔

沿革 主神三山國王は始め陳姓の者が奉祀し居たるを同庄敬神者等玄天上帝其他の祭神をも持ち來り陳清寔、陳高高、蔡外、馬漏賽等の發起にて庄民協議の上一廟宇を建立し是等祭神を合せ祀る事としたるものにして廟宇は其後屢々修繕を加へ殊に明治二十八年には後潭庄より寄附金五百圓を集め大修築を加へたりと

鎮福宮

所在 太保庄後潭

教別 儒教

祭神

媽祖、千眼、順風耳、宮祇、虎爺、觀音佛祖、太子爺、福德爺、城隍爺、五谷王、註生々娘

創立 二百餘年前

信徒 約三千人

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 太保庄大保

財產 祠廟數地○甲一三一〇、畑○甲二五二五

王 讚 福

沿革 本廟の祭神は支那移住民が當地に移住せし頃より祭祀しありたるものゝ如きも果して神像等の完備せるものありしや否や不明なり其後嘉慶年間水師提督王得祿海寇を平定したる紀念として多額の金員を本廟に寄附したれば同十六年改築を加へたるが其後明治三十八年庄民より寄附金二千圓を募集し王棟梁、王朝文、陳清寔、馬漏賽、林元、賴有等斡旋して大改築を加へたりと

北極宮

所在 太保庄崙子頂

教別 儒教

祭神 玄天上帝、康元帥、趙元帥、太子爺、刑王爺、土地公、觀音佛祖

創立 明治四十三年

信徒 約三百人

例祭 舊曆三月三日、六月十九日、八月廿三日、九月九日

管理人 太保庄崙子頂

龔 箴

財產 祠廟數地○甲一五二五

沿革 本祭神は始め庄民の自宅に祀り居たるものを明治四十三年庄民協議の上龔金五百圓を以て本廟を新築し祭神も此處に奉祀せるものにして其創立に盡力したるは同庄の楊清溪、龔箴、龔老等なりと

葉觀美館

所在 太保庄水虞厝

教 別 儒教
祭 神 葉青龍、葉青龍の子孫、蘇媽祖、洪媽祖、楊祖媽、葉朝祖

創立 二百五十年前
信 徒 約百人
例 祭 舊曆一月十一日、八月一日、八月十三日、十一月十八日、十一月廿九日、十二月十二日

管理人 太保庄水虞厝 葉 盛
財產 祠廟敷地〇甲六〇六六

沿革 本廟は今より約二百五十年前葉青龍の子葉明郎の建立に係るものにして祭神は葉青龍及其子孫なるを以て同地葉姓の祖廟なり、其後今より約百年前同姓中の葉廷なる者が一族より寄附金を募りて第一回の修築を行ひ次いで明治三十九年の大地震に大被害を蒙むりたれば葉房生發起となり同姓より工費千八百圓を集め明治四十三年大改築を加へ更に明治四十五年水害の爲め破損したれば葉盛發起にて贖金三千圓を投じ又々大修築を加へたりと

鼎新宮

所在 太保庄過溝

教 別 儒教

祭 神 媽祖、千里眼、順風耳、虎爺、土地公、太子爺

創立 嘉慶二年

信 徒 三百人

例 祭 舊曆三月廿一日、九月八日

管理人 太保庄過溝 葉和尙

財產 畑〇甲二〇四五

沿革 始め當庄に葉涼と云ふ富豪あり支那の媽祖本廟より分香し來り自宅に奉祀せるが靈顯ありとて近隣の者も漸次信仰するに至りたれば葉涼自から發議して公廟たらしめんと庄民に謀り其同意を得て贖金を募り嘉慶二年本廟を創設して各祭神を奉安せり其後明治三十八年頃陳金

樟の發起にて改築したるも其狀況詳かならず

保順宮

所在 太保庄過溝

教 別 儒教

祭 神 朱王、李王、刑王、劉府千歲、池府千歲、土地公、太子爺、虎爺

創立 年次不詳

信 徒 三百五十八

例 祭 舊曆九月十六日

願廟管理人 太保庄過溝 葉 德
財產 建物敷地〇甲〇三二五、同〇甲一五二〇

沿革 本廟は約六十年前全部焼失したれば當時庄内の有力者鄭見智なる者發起人となり金二百餘圓を募集して再興したるものなり其後明治三十九年の地震にて又た倒壊したれば葉智高、葉烏奎發起して金八百圓を募集し同四十一年改築せりと

安福宮

所在 太保庄管事厝二八四

教 別 儒教

祭 神 三山國王、五谷王、土地公、紫微爺、上帝爺

創立 不詳

信 徒 百七十人

例 祭 舊曆二月廿五日

管理人 太保庄管事厝三七一 黃 德和

沿革 當部落民は殆んど大部分廣東人なるが其最初の移住者中に廣東より三山國王を分香し來れるものあり部落民相謀りて廟宇を建設し之を祀りたるものなるも其關係詳かならず

三山國王廟

所在 太保庄白鶴厝

教 別 儒教

祭神

三山國王、大王、二王、三王、王爺奶、土地公、土地婆、釋迦、觀音佛祖、善才、夏女

創立

年次不詳

信徒

七十餘人

祭

舊曆二月廿五日

管理人

太保庄白鶴厝三三七 蘇 申

財產

田 佃四甲九六一九、田〇甲三三〇、
原野二箇所計一甲一六一〇、祠廟數
地〇甲一八九〇、古年收約百三十圓

沿革 本廟は明治四十年の改築にして

其以前之廟宇は明治三十八年之震災に倒壊して其狀況を知り難く而して此新築廟宇は同定之蘇縣慈發起となり信徒之勞力の上改築費四百圓を募集して工費に充てたりと

德興寺

所在 義竹庄東後寮

教別

佛教

祭神

觀音佛祖、善才、良女、土地公、福

創立

約一十年前

管理人

義竹庄東後寮

財產

祠廟數地〇甲四〇五〇、池沼〇甲〇六五〇

沿革 本廟の祭神は今より約五十五六年前當地の陳富陳萬の兩人が奉出

分香し來り神像を刻りて之を納り同時に兩人發起し來り庄民より幢金六百圓を集り本廟を創立して之を奉祀したるものなり

王爺廟

所在 義竹庄新庄

教別

儒教

祭神

天上聖母

創立

約十年前

管理人

四十人

財產

原野十甲十五畝

信徒

百八十人

祭

舊曆三月廿三日、四月廿六日、九月十五日

管理人

義竹庄新庄 李春來

財產

祠廟數地〇甲一八八五、畑〇甲五七八〇、田二箇所計〇甲四八三五

沿革 本廟は今より百五十年ばかり前

當地の方涌先なるものが南崑嶺廟より分香し來り且つ庄民と謀つて約四百圓を授じ廟宇を建て奉祀せるものにして其後今より約六十年ばかり前林福工費の大部分を献金し庄民亦た幾分を寄附し改修を加へたるものなりと

龍興廟

所在 義竹庄龍蛟潭

教別

儒教

祭神

五府王爺(李、池、馬、陳、刑)天上聖母、太子爺、土地公

創立

約二百年前

信徒

千餘人

祭

舊曆一月十八日

管理人

義竹庄龍蛟潭

財產

祠廟數地〇甲〇九六〇、池沼〇甲三七五〇、原野〇甲二五五五、田二箇所計一甲二七〇

沿革 本廟の祭神は今より約二百年前

庄民某が南崑嶺廟より分香し來り神像を刻みて之れに納め庄内の柏面、鄭旋、黃方、李恭、林肯、楊秋の六名が發起し工費千三百餘圓を募集し大正元年廟宇を建立して奉祀せるものなりと

馮祖廟

所在 義竹庄埤子頭

教別

儒教

祭神

天上聖母

創立

約十年前

管理人

四十人

財產

原野十甲十五畝

沿革 本廟は今より約百年前の創立に
嘉慶戊寅の年住民約百餘圓を醸出し
て修築せりと云ふの外詳細不明なり

保安宮

所在 義竹庄頭竹園

- 教別 儒教
- 信徒 約五百人
- 創立 約五十年前
- 祭神 舊曆四月廿六日
- 管理人 義竹庄頭竹園
- 祠廟敷地(甲)〇〇四〇

沿革 本廟は同庄の黃坤、元亨の兩人
が發起して庄民より二百餘圓を醸集し今
より六十四五年前創立したるものにして
祭神は南鯤鯓廟より分香し來つて神像を
刻み之れに納めて奉祀したるものなりと

福德宮

所在 義竹庄牛稠底

- 教別 儒教
- 祭神 福德爺、李府千歲、吳府千歲、保生大帝、池府千歲
- 創立 約二百年前
- 信徒 四百餘人
- 祠廟敷地(甲)三〇一五
- 管理人 義竹庄牛稠底

沿革 單に今より二百年前に創立され
たりと云ふ傳説あるのみにして其他一切
不明なり

紹徽宮

所在 義竹庄新店

- 教別 儒教
- 祭神 李王爺、池王爺、土地公、媽祖、愛臣、千里眼、順風耳、福德爺、吳府千歲

創立 乾隆二十三年
信徒 千二百人
例祭 舊曆一月十五日、三月廿三日、四月廿六日、六月十八日、八月十五日、九月九日、九月十五日、十月十五日
爐主及管理人 義竹庄新店 施清和
同 陳受九
同 柯 謙
同 張水金
同 江 定
同 陳 賢

沿革 乾隆二十三年新店の蔡容なる者
の多額の寄附を爲すと共に住民より
相當の出捐を仰ぎて本廟を建立し降つて
嘉慶八年同地主成振なる者發起し自から
多額を出捐して修繕を加へ次で同治十二
年蔡樹笈亦た多額を出捐し不足は庄民の
寄附に仰ぎて修繕を加へたりと

保安廟

所在 義竹庄芋子寮

- 教別 儒教
- 祭神 關帝爺
- 創立 百五十年前
- 信徒 千人
- 例祭 舊曆五月十三日
- 管理人 義竹庄東後寮 郭 庚

沿革 當庄は今より百五十年前北門部
瀧江の郭姓が移住し來りたる所にして前
住地にては關帝君を信仰し居たれば當庄
にても移住と同時に關帝君を奉祀する一
廟宇を建設したるに異姓の者も漸次信仰
するもの多きに至りたれば今より五六十年
前住民協議の上庄内の除難と平安祈願
の爲め改築したるが明治四十三年の洪水
に破損したれば住民協議の上金一千圓を
醸出して大修繕を行へりと

營養王宮

所在 義竹庄五間厩

教 別 儒教
神 媽祖婆、岳府元帥、太子爺、土地公、媽祖

創立 明治三十四年

信徒 五百五十人

例祭 舊曆一月四日、八月十四日

爐主 義竹庄五間厩 張 勵

財產 祠廟敷地○甲一四〇五

沿革||本宮は明治三十四年頃の創立にして其以前は祭神を各戸持廻り奉祀し居たり然るに其後同宮は警察官派出所敷地を使用さるゝ事となりたれば大正三年庄民百五十餘圓を投じて現今の宮宇を建設せり其世話役は顔連封等にして本宮には神像を置かず毎月一日十五日元帥爺を持ち行きて庄民參拜すと

龍安宮

所在 義竹庄牛挑灣

教 別 道教

祭神 三山國王、五府千歲

創立 約二百八十年前

信徒 約二千人

例祭 舊曆六月六日、十月十四、十五兩日

管理人 義竹庄牛挑灣 章 頂生

財產 祠廟敷地○甲〇〇三〇

沿革||今より二百八十年前の創立なるも其狀況を詳かにせず其後風雨の爲め自然破損を蒙むりたれば庄民協議の上八十圓を出捐して年代不詳に修繕を加へ更に明治四十年頃震災復舊工事として庄民協議の上陳登財、翁知屎二名を監督として庄内の醜金六百二十圓を以て大修繕を加へたりと



爐主 毎年媽祖祭典日前に改選し任期一年とす昭和五年は同地の黃看君爐主たり

沿革及經理 天上聖母即ち媽祖を祀る團體にして如三甲四三五と基本金四百三十八圓を蓄積し居り年々分出して祭典の資に充當し居れり

彰聖王公會 水林庄後寮三六三

祭神 聖王
會員 百六十四名

創立 約七十年前
例祭 舊曆八月十五日

沿革及經理 今を去る約七十年前同地部落民間に爭鬪起れり其際彰聖王を奉祀すれば必勝すとの流説あり部落民之を奉祀す即ち其祭祀團體なり財産として後寮及蕃薯厝に約七甲三〇九五の畑地を有し曾修君之を管理し祭典の資に充つ

聖母會 水林庄溪墘厝四一

祭神 媽祖
會員 十八名

創立 嘉慶二十年
例祭 舊曆三月廿三日

沿革及經理 北港媽祖の分神を祀るものにして其大像は爐主の住宅に在り財産は畑〇甲九八三五と現金僅少あり漸次資金を蓄積して右大像を安置祭祀する廟宇を建立する計畫がある

東石郡宗教團體

朴子街

觀音媽會 朴子街朴子

祭神 觀音媽
會員 六人(朴子市場の商人)

創立 明治三十五年
爐主 朴子街朴子

沿革及經理 祭神の加護を受け會員の協助互援と親睦を厚くする爲め創立し會の維持は必要に應じ會員より徴收し會員の吉凶禍福に際しては會員贖金して敬弔の意を表し見舞金を送る其概要は父母を裏ひたる者には各金一圓宛、子女を擧げたる者には二十錢宛、新築落成には五十錢宛、又た例祭には四十五錢宛を出して

祭祀を行ふと

觀音媽會 朴子街朴子

祭神 觀音媽
會員 八人

創立 二十年前
例祭 舊曆六月十九日

蘇龍

沿革及經理 隣保親善相互共援の目的にて創立されたるも年代不詳、維持は別に基金を作らず必要に應じて會員より醸出マ而して本會員の父母死亡の際は各一圓五十錢宛、生産の場合には二十錢宛、生後四ヶ月目に四十錢宛、誕生日に四十錢宛、新築落成に四十錢宛を贈呈すと

觀音媽會 朴子街下竹園

祭神 觀音媽
會員 十人

創立 明治四十二年
例祭 舊曆二月十九日

陳帶 洪木

沿革及經理 本會は最近の創立にて別に基本金を有せず必要に應じ會員より徴收して支辨しつゝあり其主なる出發は會員父母死亡の際各一圓宛、毎年例祭の時四十錢宛を出して祭祀を行つて居ると

觀音媽會 朴子街朴子

祭神 觀音媽
會員 九人

創立 明治三十八年
例祭 舊曆九月十九日

何齊 黃阿昆

沿革及經理 之も最近の創立にして別に沿革の特記すべき事なく只だ會員の父母死亡の際各一圓宛を贈り又た例祭の時五十錢宛を出して會員の享福と會員の協力一致に依りて生活戦線に勝利を得ん事を祈る所謂會員親睦の意味にて創立されたるものなりと

觀音媽會 朴子街下竹園

祭神 觀音媽
會員 十二人

創立 明治四十年
例祭 舊曆二月十九日

爐 主 朴子街下竹園 劉恭喜
 管理人 同 黃水
 沿革及經理 之れ又た前同様の意味にて創立されたるものにして別に基本金を有せず必要に應じ會員各自より騰出す、會員の父母死亡の際各一圓、二月十九日の例祭に各四十錢宛

媽祖會 朴子街大棟椰

祭 神 天上聖母
 會 員 二十人(同地涂姓のみ)
 創立 約百十數年前
 例 祭 舊曆三月廿三日
 爐 主 朴子街大棟椰 涂 棟
 管理人 同 涂 得

沿革及經理 大棟椰の媽祖廟祭典に當り神輿を昇ぎ涼傘を奉持する役目を果す爲め創立されたる者にして所屬財産として現金八十圓を有し此の貸付利息に依り維持費を支辨し居れり

元帥爺會 朴子街小棟椰

祭 神 劉元帥爺
 會 員 十六人
 創立 光緒丁酉年
 例 祭 舊曆九月十六日
 爐 主 朴子街小棟椰 陳 春

沿革及經理 本會創立前當部落に強窃盜の災害に逢ふ者多かりしを以て李士館、錢士企の有志協議の上此遭難救済の爲め本會を創立せり當初は會員各二圓宛を醸出し之を貸付け其利息に依り祭祀を營み來りしが中頃其基金漸く増加したれば土地三分を買ひ此收益を祭事費に充てたり併し右土地は明治四十四年明治製糖に買収されたれば今は再び基金を貸與し利息に依り維持費祭事費を支辨し居れり現金一百六圓年利息十六圓三十錢

媽祖會 朴子街小棟椰

祭 神 媽祖
 會 員 二十三人
 創立 光緒十三年
 例 祭 舊曆三月廿三日
 爐 主 六脚庄蒜頭 黃 噯

沿革及經理 北港媽祖南巡奉送迎に出役する爲め時の有志蘇達、黃老澎等發起して本會を創立し當初に會員各貳圓宛を醸出し其利息を以て會の維持費に充て居たるが中頃土地四分餘を買ひ其の收益を以て費用を支

辨する事に更めたるが大正二年右土地を他に賣却したれば目下は其代金を貸付け其利息を經費に充て居れりと現基金五十九圓餘、年利息十一圓餘あり

土地公會 朴子街小棟椰

祭 神 福德爺
 會 員 十六人
 創立 光緒十三年
 例 祭 舊曆二月二日
 爐 主 朴子街小棟椰 蘇 助

沿革及經理 農作物の豐穰を祈る爲め時の有志蘇胡觀發起して本會を創立し會員各二圓宛醸出して基本金とし當初は之を貸付け其利息を以て祭費維持費を支辨し來りたるが其後基金の蓄積を得て畑〇甲八四三〇を買ひ入れ其收益を費用に充て今日に至れりと現收益年十五圓内外なりと

福德爺會 朴子街炭後

祭 神 福德爺
 會 員 十人
 創立 不詳
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 朴子街炭後 葉 英

沿革及經理 沿革不詳、所屬財産畑一甲二五六〇、年收益十七圓餘あり祭事費維持費に充て居れりと

土地公會 朴子街炭後

祭 神 土地公
 會 員 十六人(同地泉州人陳姓のみ)
 創立 不詳
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 朴子街炭後 陳 良

沿革及經理 沿革不詳、創立の際會員醸金して田地を買入れ其收益を以て維持し來りたるが如きも詳細不明なり現所屬財産田〇甲五五三五小作料十圓餘維持費に充て居ると

福德爺會 朴子街炭後

祭 神 福德爺
 會 員 二十五人
 創立 約二百年前
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 朴子街炭後 陳 萬

沿革及經理 約二百年前陳姓の祖先が祭神を支那より奉持し來り本會を創立して年一回又は二回祭日を下

し親睦の爲め宴會を開き享樂を爲せり費用は會員相互
讓出して土地を買入れ其收益を以て之に充てたり現財
産畑〇甲五二六〇年收益四圓

保生大帝會

朴子街塚後

祭神 保生大帝

會員 六人(同地泉州人葉姓のみ)

創立 不詳

例祭 舊曆廿九日

管理人 朴子街塚後

葉英

沿革及經理 祖先の創立せしものと云ふのみにて沿
革不明、創立當初は所屬財産の收入に依り維持し來れ
るが明治三十五年財産を賣却して會員に配當し爾來越
年の當日會員各自宅に於て祭祀を行ふのみと

上帝爺會

朴子街塚後

祭神 玄天上帝

會員 十四人(泉州人の陳姓のみ)

創立 不詳

例祭 舊曆三月三日

管理人 朴子街塚後

陳乙

沿革及經理 同姓の親睦を計る爲め祖先が創立した
るものなりと云ふの外不明、維持は創立當初會員出資
して田一甲六九二〇を買入れ此の收益を以て支辨し居
れりと年收二十八圓餘あり

聖母會

朴子街吳竹子脚

祭神 聖母

會員 四人

創立 五十餘年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 朴子街吳竹子脚

吳等

沿革及經理 天上聖母を奉祀せば靈顯著しとて本會
を創立し會員五に出資して畑約九分を購入し残りは貸
付けて利殖を計り此の收益にて祭典を行ひ會を維持し
今日に及べりと所屬財産田〇甲九六一五あり收益不明

三官爺會

朴子街龜子港

祭神 三官爺

會員 三人

創立 不詳

例祭 不詳

管理人 朴子街龜子港

蔡 際

沿革及經理 創立發起等不詳、所屬財産田〇甲七〇
三五(年收十二圓)あり維持費祭典費に充て今日に至

ると

大陀公會

六脚庄更寮

祭神 保生大帝

會員 四百人(同地吳姓のもの)

創立 約百二十年前

例祭 不詳

爐主 六脚庄更寮

管理人 同

吳 傳
吳子賢

沿革及經理 更寮最初の移住者吳葉志なるもの同地
及朴子街の吳姓を叫合して本會を創立し祭神の誕生日
に祭祀を行ふ事とせり祭費及維持費は會の所屬財産
る土地の收益より支辨し今日に及びたりと所屬財産畑
〇甲一九一五(年收益二十三圓)ありと

媽祖會

六脚庄潭子墩

祭神 天上聖母

會員 四十四人

創立 約六十年前

例祭 舊曆五月九、十兩日

爐主 潭子墩侯通、副爐主 同

管理人 同

侯春連
侯合

沿革及經理 北港媽祖の招聘に當り轎夫其他の使者
を庄民輪番にて行ひ來りしも往々缺員ありて不都合の
場合を生ずるより同地の侯老發なる者本會を創立して
轎班出役者を一定せり維持費は本會創立の當初會員よ
り各二圓宛を徴收して基本財産とし之を他へ貸付け其
利息を維持費に充て來りたるが其後右基金にて畑地を
買入れ爾來其收益にて維持し居れりと現所屬財産畑〇
甲七二三五(年收十四圓)ありと

轎班會

六脚庄潭子墩

祭神 媽祖

會員 四十三人

創立 約六十年前

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 六脚庄潭子墩

侯 湖

沿革及經理 今より八十年前嘉義に土匪襲來せる際
當地の侯、黃、陳の三名命を受けて之れが警戒に赴き
たるが其節當地温陵宮の媽祖に祈願したるに靈顯著し
く無事歸郷せるは全く神助に依るとて本會を創立した
り當時會員各一圓宛を讓出し之を他に貸付け其利息に
て祭祀を濟み來りたるが其後田地を買入れ爾來其農耕
料を祭費其他に充當し居れりと所屬財産畑二甲〇七〇
〇小作料三十三圓ありと

楊六賽 六脚庄六脚

祭神 輔順將軍
 會員 二百八十人(同地楊姓)
 創立 約二百十數年前
 例祭 舊曆十一月冬至
 爐主 六脚庄六脚
 管理人 同 楊 壁 赤

沿革及經理 當庄最初の移住者楊悲參なるもの土匪防備の方法として本會を創立し祭神の庇護を求むる事とし會員より應分の贖金を徴し之を他に貸付けて利殖を圖り且つ土地を購入して其收益をも併せて祭事費維持費に充當し來れり現所屬財産烟一甲九〇一五(此年收六十四圓餘)現金五百三十七圓ありと

呂聖會 六脚庄六脚

祭神 開潭聖王
 會員 四百人(同地呂姓)
 創立 約百六、七十年前
 例祭 舊曆十一月冬至
 爐主 六脚庄六脚
 呂 親
 呂 貫
 管理人 同

沿革及經理 同地呂姓の祖先が同姓一同の守護神として將た亦た土匪襲來に備ふる爲め呂姓の協力一致を誘ふ爲め本會を創立し會員各一圓宛を出して基本金として蓄積を圖り其中より畑地を購入し殘金は更に蓄積を圖り祭費維持費は其中より支辨して今日に至れり現所屬財産畑地二甲四〇二五(年收四十二圓)現金五百四十一圓餘ありと

媽祖會 六脚庄下双溪

祭神 媽祖
 會員 二十人
 創立 約百八十年前
 例祭 舊曆三月十日
 爐主 六脚庄下双溪

沿革及經理 往時朴子街外五十三庄の信徒が配天宮媽祖を朴子街に奉安する事とし朴子以外部落にては順次之を自庄に諄迎して禮拜する事としたる爲め當地の侯亦足、侯盛發起となり本會を創立し會員各貳圓宛を出して其後の維持費に充つべく利殖を圖り來りたるが十七八年前該基本金を消盡したれば其後本會も廢絶の姿にて僅かに會員が其自宅にて僅かに祭祀を行ふあるのみと

池王會 六脚庄灣内

祭神 池王爺
 會員 九人
 創立 約七十餘年前
 例祭 舊曆六月十八日
 爐主 六脚庄灣内
 陳振興

沿革及經理 本祭神の信者が集まりて本會を創立せるものにして發起者は陳知母なり創立の際會員各四圓宛を贖出し之を母金として利殖を圖り維持費に充て來りたるも過年陳信なる者二百五十餘圓を借りたる儘死亡し回收する能はず現在にては貸金九十五圓餘あるのみ

李王會 六脚庄灣内

祭神 李王爺
 會員 六百五十人(灣内第三保民)
 創立 七十年前
 例祭 舊曆一月十七日(凶年には祭典を行はず)
 爐主 六脚庄灣内
 黃新頭

沿革及經理 一切不明にして現在は會員の喜捨に依り維持し居れり

永王會 六脚庄灣内

祭神 永王
 會員 七人
 創立 慶應三年
 例祭 舊曆八月廿日
 爐主 六脚庄灣内
 陳 栲

沿革及經理 陳偃、陳井外五名の創立に係り當初各金五拾錢宛を贖出して基本金とし之を貸付け其利息を以て會の維持に充つる事として今日に及べるが就中貸付金四十圓は會員陳竅の借用に係るも同人死亡後相續者陳巧貧困にて回收の見込立たずと

朱王會 六脚庄灣内

祭神 朱王爺
 會員 十七人
 創立 明治四十一年
 例祭 不詳
 爐主 六脚庄灣内
 何天化

沿革及經理 會員の親睦を圖り且つ其無事息災を祈る爲め本會を創立し會員各一圓宛を贖出して基本金とし之を貸付其利息を以て會の維持費に充當し來れり現金八十五圓餘ありと

觀音媽會 六脚庄灣内

祭神 觀音佛祖
 會員 十四人
 創立 明治四十二年
 例祭 舊曆六月十九日(凶年には祭典せず)
 爐主 六脚庄灣内 陳 罵
 沿革及經理 觀音佛祖の功德に依り會員一同平穩無事を祈る爲め本會を創立し會員各一圓宛を醸出して基本金とし之を他に貸付け其金利を以て會の維持費に充て今日に及べり現貸付金十五圓ありと

聖王會 六脚庄灣内

祭神 聖王
 會員 十四人(同地陳姓の者)
 創立 明治十年
 例祭 舊曆二月廿二日
 管理人 六脚庄灣内 陳 張

沿革及經理 灣内三二五當地の畑地が元陳姓の者の所有なりしも絶家して相續者なき爲め本會を組織して之を基本財産とし其小作料に依つて會を維持する事としたるが該畑地は牛稠溪畔に在りて年々水害の爲め流失し現在にては僅かに五厘ばかりを残せるのみなれば明治三十九年以來祭事を中止し居れりと

觀音媽會 六脚庄灣内

祭神 觀音媽
 會員 十八人
 創立 不詳
 例祭 舊曆二月十九日
 爐主 六脚庄灣内 陳 蔡
 管理人 同 陳 石

沿革及經理 以前父母會なりじを後神明會に組織合せしものにして觀音の功德を慕ひ且つ隣佑和親の目的を以て創立せりと所屬財産畑〇甲八九五〇小作料年二十圓あり祭事費維持費を支辨して餘りありと

媽祖會 六脚庄灣内

祭神 媽祖
 會員 二十人
 創立 明治四十三年
 例祭 舊曆一月九日
 爐主 六脚庄灣内 詹 賀

沿革及經理 平安享福を祈願する爲め本會を創立し會員各一圓宛を醸出して基本金とし之を他に貸付け其利息を以て會を維持する事とし今日に及べり現在貸金

二十一圓年利六圓餘ありと

媽祖轎班會 六脚庄灣内

祭神 媽祖
 會員 二十人
 創立 明治十年
 例祭 舊曆三月二十三日
 爐主 六脚庄灣内 陳 本

沿革及經理 部内鳳山宮の例祭に北港及新店の溫陵媽を奉迎送する例なるを以て此奉送迎の出役者を以て本會を創立し一面媽祖の福祉を受けん爲め祭祀を行ふ事としたるものにして會員は當初金五十錢宛を醸出し之を他に貸付け其利息を以て會の維持を爲し共に益々利殖を計り現今にては所屬財産として畑〇甲五五〇五年收十三圓あり維持費に充て居ると

聖母轎班會 六脚庄灣内

祭神 媽祖
 會員 二十人
 創立 明治十六年
 例祭 舊曆三月二十三日
 爐主 六脚庄灣内 洪 就

沿革及經理 同地鳳山宮祭典の際北港及新店の溫陵媽奉迎送轎班出役者を以て創立し當初各會員五十錢宛を醸出して基本金として貸付利殖を圖り祭費及維持費は各自必要に應じ支出し來りしが現在にては貸付金二十八圓餘を算するに至れりと

媽祖會 六脚庄灣内

祭神 媽祖
 會員 二十六人
 創立 明治十四年
 例祭 不詳
 爐主 六脚庄灣内 黃 猪批
 管理人 同 黃 見智

沿革及經理 北港媽祖の南部巡行の際奉迎送する爲め本會を創立し會員五十錢宛を醸出して之を他に貸付け其利息を會の維持費に充て残り更に利殖して明治四十年畑〇甲五四六五を買入れ爾來其小作料を以て祭費維持費を支辨し居れりと

仙師公會 六脚庄灣内

祭神 仙師爺
 會員 三十人(同地泉州人黃姓)
 創立 文政二年

例 祭 舊曆三月四日

爐 主 六脚庄蒜頭

管理人 同 黃天生 黃漏興

沿革及經理 本祭神を祭れば除疫惡覺拂ひに靈顯ありとて會員各二十錢宛を醸出して基本金とし本會を組織せり而して此基本金は之を他に貸付け利殖を圖り六十圓に達する法は祭事費維持費共會員より隨時支出する事と定めたるが現在にては其基金八十四圓に達し年利息十二圓ありて費用は此の利息にて支辨し居れりと

祖師公會 六脚庄蒜頭

祭 神 清水祖師

會 員 二十人

創立 文政八年

例 祭 不詳

爐 主 六脚庄蒜頭

管理人 同 黃 油 黃 慶

沿革及經理 本祭神は當地の黃坎なる者が泉州より迎え來り自宅に祭祀せるに靈顯ありとて附近の者も漸く之を信仰するに至りたれば本會を創立せり當初會員は各二圓宛を醸出し他人に貸付け利殖を圖り明治十年其蓄積金にて畑〇甲五三〇〇を買入れ爾來之れが收益に依り祭事を行ひ維持費を支辨し居れるが年收は十六圓なりと

池王會 六脚庄蒜頭

祭 神 池王爺

會 員 二百餘人

創立 約百四五十年前

例 祭 舊曆六月十八日

爐 主 六脚庄蒜頭

沿革及經理 當部落附近の者協議の上會員の無事長

久を祈るべく本會を創立したるも本會には何等基本財産なく祭典費維持費は必要に應じ會員より任意支出して居ると

媽祖會 六脚庄蒜頭

祭 神 媽祖婆

會 員 十五人

創立 文化十年

例 祭 北港媽祖南巡當地通過の日

爐 主 六脚庄蒜頭

管理人 同 李 環 黃 界

沿革及經理 北港媽祖南巡當地通過の劉奉迎禮祭を行ふ爲め創立し當初會員各十圓宛を醸出し基本金とし

之を利殖して畑三甲餘を買入れ其收益を以て祭事費維持費に充て來りたるが其後所有地の大部を公共墓地に收用されたれば殘部を小作せしめ居るも目下維持困難なりと

觀音會 六脚庄蒜頭

祭 神 觀音媽

會 員 六人

創立 寛政元年

例 祭 舊曆九月十六日

爐 主兼管理人 六脚庄蒜頭

沿革及經理 從來全部落に病疫者多かりしを以て時の有志黃翁發起となり本祭神を祀り除疫を祈る事として本會を創立せり創立の際各金二圓を醸出し之を貸付利殖を圖り天保元年に至り畑一甲〇一四五(年小作料三十圓)を買入れ爾來其收益を以て祭典費維持費を支辨し居れり

媽祖會 六脚庄三姓寮

祭 神 媽祖

會 員 二十四人

創立 約六十年前

例 祭 一定せず

爐 主 六脚庄三姓寮

沿革及經理 約六十年前當部落附近に惡疫流行し且つ旱魃の被害あり土地の有志黃胡部落民と謀り北港及新港の媽祖を招請したるに靈顯あり依つて毎年一回奉迎する事とし其費用負擔の爲め本會を創立せり當初會員は各一圓宛を醸出して利殖を圖り祭典費維持費は別に會員に於て負擔し來りたるが現在に於ては其基金四十圓に達し利息年八圓に及ぶと

媽祖會 六脚庄港尾寮

祭 神 媽祖

會 員 十二人(同地黃姓の者)

創立 約七十年前

例 祭 一定せず

爐 主 六脚庄港尾寮

沿革及經理 約七十年前當部落に北港媽祖を勸請して嚮作を祈りたるに其功德著しかりしかば爾來毎年勸請する爲め本會を創立せり會員は當初金十圓宛を醸出し畑地を購入し其收益を祭典費維持費に充つる事として今日に及べり財産畑二甲一九七五(年收五十圓)ありと

媽祖會 六脚庄港尾寮

祭 神 媽祖

會 員 十二人(同地黃姓の者)

創立 約七十年前

例 祭 一定せず

爐 主 六脚庄港尾寮

沿革及經理 約七十年前當部落に北港媽祖を勸請して嚮作を祈りたるに其功德著しかりしかば爾來毎年勸請する爲め本會を創立せり會員は當初金十圓宛を醸出し畑地を購入し其收益を祭典費維持費に充つる事として今日に及べり財産畑二甲一九七五(年收五十圓)ありと

媽祖會 六脚庄港尾寮

祭 神 媽祖

會 員 十二人(同地黃姓の者)

創立 約七十年前

例 祭 一定せず

爐 主 六脚庄港尾寮

沿革及經理 約七十年前當部落に北港媽祖を勸請して嚮作を祈りたるに其功德著しかりしかば爾來毎年勸請する爲め本會を創立せり會員は當初金十圓宛を醸出し畑地を購入し其收益を祭典費維持費に充つる事として今日に及べり財産畑二甲一九七五(年收五十圓)ありと

媽祖會 六脚庄港尾寮

祭 神 媽祖

會 員 十二人(同地黃姓の者)

創立 約七十年前

例 祭 一定せず

爐 主 六脚庄港尾寮

沿革及經理 約七十年前當部落に北港媽祖を勸請して嚮作を祈りたるに其功德著しかりしかば爾來毎年勸請する爲め本會を創立せり會員は當初金十圓宛を醸出し畑地を購入し其收益を祭典費維持費に充つる事として今日に及べり財産畑二甲一九七五(年收五十圓)ありと

媽祖會 六脚庄双漁

祭神 媽祖婆
會員 二十人

創立 嘉慶五年
例祭 舊曆三月廿三日

爐主及管理人 六脚庄双漁 陳瀾足

沿革及經理 嘉慶五年頃當部落に惡疫流行し死亡者多かりしかば時の有志陳榮、黃光添發起して媽祖婆を迎へ祈禱せるに靈顯著かりしかば本會を創立して永く祭祀を行ふ事とし會員各一圓宛を醸出して基本金とし其貸付利息を祭費維持費に充つる事として今日に至る現在基金二十圓其利息年四圓ありと

觀音媽會 東石庄港墩

祭神 觀音媽
會員 十七人

創立 明治十九年
例祭 舊曆二月十九日

爐主 東石庄港墩 陳旺

沿革及經理 會員の父母死亡の際互に救援の目的と且つ會員の家内安全を祈らん爲め本會を創立し會員は各五十錢宛を醸出し基本金として利殖を圖り約十七年間に元利金三十三圓に達したれば爾來其利息を以て祭事費に充て居れるが會員の父母死亡の際には會員各自より金五十錢と白米六升宛を贈呈すと

媽祖會 東石庄港墩

祭神 媽祖
會員 二十人

創立 不詳(明治四十三年再興)
例祭 舊曆三月廿三日

爐主 東石庄港墩 卓田

沿革及經理 本會の最初の創立は不詳なるも明治四十三年同地の陳文虎發起して再興せり主趣は會員の父母死亡の際葬儀費其他を救援し且つ會員の平安を祈る爲めにして創立の際會員各一圓を醸出し之を基金として利殖を計り現今にては貸付金四十一圓年利息十圓以上となりたれば祭費維持費を支辨して餘りありと尙ほ會員の父母死亡の際には他の各會員より一圓宛を贈呈する定めなりと

南北郊 東石庄東石

祭神 震魂、天上聖母
會員 十人(頂東石貿易商)

創立 明治九年

例祭 舊曆七月廿三日

爐主 東石庄頂東石 吳繼

沿革及經理 頂東石及朴子脚の貿易商の發展を計らん爲め創立し郊員より輸出入品の數量に依り郊員と稱する郊費を集め東石港に出入する船舶又は郊員の災難を救恤し且つ郊員の團結を計る目的にて創立したるも明治三十二年朴子脚貿易商は同郊より分立し今に頂東石の貿易商のみとなり移出入も減じて郊員も集まらず郊も殆んど有名無實の状態にありと

媽祖會 東石庄湖底

祭神 媽祖
會員 五人(同地林姓のもの)

創立 數百年前
例祭 舊曆三月廿三日

爐主 東石庄湖底 林岸

沿革及經理 當地林姓の祖先が當地へ移住の際颶風に遭ひ難破せんとしたるに豫れて信仰せる媽祖の加護に依り無事安着するを得たりとの事にて其子孫等謝恩の意味にて本會を創立せり最初會員各四圓宛を出し基本金とし之を他に貸付け其利息を以て會の祭事、維持を爲し來り今日に及ぶと

王爺會 東石庄湖底

祭神 三王(吳府千歲爺)
會員 二十九人

創立 約百四十年前
例祭 舊曆九月十五日

爐主 東石庄湖底 林聯

管理人 同 許電

沿革及經理 百四十年前當地許發起人となり庄内の安穩を祈る爲め本會を創立したるも祭祀其他に充當する費用の出途なく自然消滅に歸し居たるを明治四十二年林聯外二十八名にて本會を再興し基金として會員より應分の出贖を需め其利息を以て會の費用に充つる事とし今日に至る現在基金六十六圓年利息收入十三圓餘ありと

大王爺會 布袋庄布袋

祭神 大王爺
會員 十八人

創立 百十年前
例祭 舊曆十一月廿一日

爐主 布袋庄布袋 蔡牛觸

沿革及經理 當地蔡洽の祖七、王爺を祀りて

沿革及經理 當地蔡哈の祖先が王爺港に到着の紀念として王爺廟に詣りて王爺の神像を彫刻し水火風災の除難及家内安全を祈る爲め信仰者と計り本會を創立したるも別に維持費祭典費の出途なく例祭の節會員各自一圓宛を出して其費用に充て居れりと

始祖祭

祭神 始祖祭十郎顯祖庇黃氏媽
會員 三百人(蔡姓のもの)
創立 百十年前
例祭 舊曆清明冬至ノ二回
祭主 布袋庄内田 蔡 澳

沿革及經理 當地蔡三七の祖先蔡灘なる者發起し同性協議の上本會を組織したるも別に基金等なく祭費は其都度蔡主之を負擔し維持費は會員の贖金に依ると

朱王爺會

祭神 牛王爺
會員 五十人(同地の蔡姓の者のみ)
創立 百十年前
例祭 舊曆一月十八日
祭主 布袋庄布袋 蔡 江連

沿革及經理 沿革等一切詳かならず只だ同地蔡極なる者の發起にて創立せると云ふを知るのみ随つて祭事費維持費の蓄積もなく祭典のとき隨時會員より贖出し居れりと

康王會

祭神 大師爺
會員 百二十人(新厝仔の蕭姓のみ)
創立 明治三十三年
例祭 舊曆九月九日
祭主 布袋庄内田 蕭 富

沿革及經理 當地の蕭澎發起し同性協議の上創立せり祭費及維持費は祭典の際會員より贖出すと

順王會

祭神 順王爺
會員 二十七人(蔡姓の製糖業者)
創立 光緒十九年
例祭 舊曆十月十二日
祭主 布袋庄内田 蔡 全

沿革及經理 布袋嘴庄の三公廟に配祀しありたるも内田庄の蔡豆齒發起して内田に移し祀る事としたるものにして最初より基金等の収入なく祭典の節會員より贖出す

して其費に充て居れり

大王爺會

祭神 大王爺
會員 二十二人(當部落養魚業者)
創立 明治二十年八月
例祭 舊曆正月、三月、七月
祭主 布袋庄前東港 王 鎚

沿革及經理 當地海國宮廟の修繕費に充つる爲め王鎚、蔡洋、蔡龍、周勇、邱灯等相謀りて本會を組織し會員各五十錢宛を出し之を他に貸付け其利息を維持費に充つる事としたるが現在基金十一圓年利息一圓八十錢ありと

佛祖會

祭神 佛祖
會員 八人(同地食齋人)
創立 明治四十二年
例祭 舊曆八月十四日
祭主 布袋庄前東港 蔡 木

沿革及經理 佛祖を信仰して冥福を祈ると同時に會員應分の贖出を爲し其收益を以て海國宮廟の修繕に充つる爲め本會を創立し基金八圓を得て利殖を圖り會の維持費に充て居る現在基金の年利息一圓五十錢ありと

三王爺會

祭神 三王爺
會員 十二人(當地養魚業者)
創立 明治三十八年
例祭 舊曆九月十五日
祭主 布袋庄前東港 蔡 鵠

沿革及經理 北門嶼王爺港の三王爺は當地の海國宮廟の大王爺と兄弟なればとて蔡鵠其他の有志相謀りて三王爺を信仰する者を叫合して本會を創立し先づ海國宮廟修繕準備基金として金一圓宛を贖出し基本財産とし之を他に貸付け其利息を以て會の維持費に充つる事としたるが現在基金二十四圓年利息二圓ありと

水仙王爺會

祭神 水仙王
會員 當埠船業者全部
創立 明治四十年
例祭 舊曆十月十日
祭主 布袋庄前東港 蔡 近

沿革及經理 水仙王を信仰し同時に海國宮廟の修繕準備金を醸金する爲め本會を創立し會員各一圓宛を醸出し之を他に貸付け其利息を會の維持費に充つると共に海國宮廟の修繕に何時たりとも出金し得る事とせり

蕭大帝會 布袋庄新塩

祭神 蕭大帝
會員 十四人(同地蔡姓の考)
創立 明治四十年六月
例祭 舊曆六月十七日
爐主 布袋庄新塩 蔡旺

沿革及經理 蔡旺外數名の同姓有志協議の上相互の親睦を篤ふし且つ蕭大帝を信仰せん事を約して本會を創立せり當利會員各一圓宛を醸出して基本金とし之を他に貸付け其利子年二圓内外を以て會の維持費に充て今日に至ると

順天爺會 布袋庄新塩

祭神 順天爺
會員 二十人
創立 大正二年
例祭 舊曆八月十四日
爐主 布袋庄新塩 洪黨

沿革及經理 同地の洪黨、蘇鹽、洪斷、洪專等相謀りて王爺會を組織せんと協議し洪黨の發案にて順天爺を信仰奉祀し本會を創立せり當利會員各一圓宛をして基本金とし之を他に貸付け其利息を維持費に充つる事として今日に及びり現在基金二十圓利子年二圓内外

三王爺會 布袋庄新塩

祭神 三王爺
會員 十六人
創立 明治三十九年
例祭 舊曆九月十五日
爐主 布袋庄新塩 高業

沿革及經理 當地蔡斷、黃再、蔡榮、蔡池等相謀り會員の無事息災を祈る爲め三王爺會を組織しては如何の議を出し外十數名の賛同を得て本會を創立せり創立の當初基本金として會員は各一圓宛を醸出し之を他に貸付け其利息を以て會の維持費に充つる事として今日に至れるが現在基本金十六圓年利息二圓ありと

池王爺會 布袋庄新塩

祭神 池王爺

會員 十六人(同地洪姓のみ)

創立 明治四十年
例祭 舊曆六月十八日
爐主 布袋庄新塩 洪蘇

沿革及經理 同地洪姓の有志協議の上相互の親睦を篤ふし併せて相互の享福を祈る爲め本會を創立し會員各一圓宛を醸出し基本金として之を他に貸付け其利息を以て會の維持費に充つる事として今日に及びり現基本金十六圓年利息二圓

太子爺會 布袋庄新塩

祭神 太子爺
會員 四人(同地蔡姓のもの)
創立 明治三十九年
例祭 舊曆九月九日
爐主 布袋庄新塩 蔡邑

沿革及經理 同地の同姓者協議の上太子爺會を創立し會員各三圓宛を醸出して基本金とし之を他に貸付け此利息を以て會の維持費に充つる事として今日に至る現在基金十二圓利息年二圓ありと

上帝爺會 義竹庄新庄

祭神 上帝爺
會員 十二人
創立 不詳
例祭 不定日
管理人 義竹庄新庄 薛萬生

沿革及經理 同庄の林清なる者本祭神を自家に奉祀し居りしが病死に當り財産を相續する者なきより近隣の者集まりて本會を創立し財産を會に相續し本祭神を祀る事とせりと所屬財産畑四甲〇六三五、田一甲一三〇五、年收七十三圓餘あり祭典費維持費に充て居れりと

聖母會 義竹庄新庄

祭神 聖母
會員 七人
創立 不詳
例祭 舊曆三月二十三日
管理人 義竹庄新庄 高租

沿革及經理 沿革等詳かならず、會員は創立の際各自應分の醸金を爲し基本金を作り之にて土地を買入れ其收益に依りて會を維持し來れりと所屬財産畑〇甲七二六五、年收八圓ありと

祖師公會 義竹庄新庄

祖師公會 義竹庄新庄

祭神 祖師公
會員 十五人(同地黃姓の農民)
創立 不詳
例祭 不定日

管理人 義竹庄新庄 黃林啓

沿革及經理 沿革其他不明にして明治二十八年頃一度廢會したるも所屬財産の整理上必要あり名義のみ再興せりと所屬財産畑二甲四四五、田〇甲七六〇五あり其收益より會の維持費を支辨し居れり

神明會 義竹庄頭竹園

祭神 李、池、吳各府千歲爺
會員 六十九人
創立 咸豐辛酉年

沿革及經理 當地黃大目、黃乾、黃篤等發起して會員の親睦を圖り王爺を祀る爲め本會を創立し會員各自の出金を合して土地を買入れ其收益に依り祭事を行ひ會の維持費に充つる事として今日に及びり所屬財産畑四甲四二八〇、此收益六十二圓ありと

聖母會 鹿草庄山子脚

祭神 天上聖母
會員 五十人
創立 七十年前

例祭 舊曆三月廿三日
管理人 鹿草庄山子脚 王春

沿革及經理 山子脚庄陳隴なる者北港媽祖を奉じ來り鄭長方に奉祀したり奉祀の當時媽祖崇敬者集まりて本會を創立し全部打揃ふて北港媽祖に參詣する事とせり所屬財産田〇甲六四四五を有し年收十五圓あり祭祀費維持費に充てゝ居るが右財産を如何にして造成せしや詳かならず

聖母會 鹿草庄海豐

祭神 媽祖
會員 五人(同地王姓の者)
創立 光緒初年
例祭 なし

管理人 鹿草庄海豐 王周

沿革及經理 北港媽祖は從前毎年臺南に出張するを例として其節必ず當庄を通過するを以て本庄よりは其都度送迎の爲め人夫を出す習慣ありしも中には貧困に

して出役困難なる者あり乃ち當地の王仔生なる者此の貧困者に補助すべく本會を創立し田一甲一六一〇を寄附し其收益を以て祭事費維持費及出役者の補助費等に充つる事とし今日に至れりと

聖母會 鹿草庄藤豆店

祭神 媽祖
會員 三名(同林姓の者)
創立 七十年前

管理人 鹿草庄藤豆店 林萬枝

沿革及經理 北港媽祖を信仰し毎年一回會員全部參詣の目的にて本會を創立せり財産蓄積の狀況不明なるも現に所屬財産田〇甲七六八〇(年小作料十圓)を有し會の維持費に充當し居れり

仙公爺 鹿草庄三角子

祭神 王毅仙帝
會員 十六名
創立 道光二十年

管理人 鹿草庄三角子 林田

沿革及經理 當部落の林田方に奉祀せる本祭神は往昔泉州安東縣の董一讓なる者が奉持して渡臺せる者同地の信仰者協議の上本會を創立し永く祭祀を絶たざると同時に會員の親睦を厚ふする事とせり所屬財産畑一甲一〇二〇收益二十圓あり會の維持費に充てゝ居ると

媽祖會 鹿草庄頂潭

祭神 媽祖
會員 三十三人(當地林姓のみ)
創立 約百十年前

例祭 舊曆三月二十三日
管理人 鹿草庄頂潭 林文

沿革及經理 當地の林力なる者北港媽祖より分香し來り本會を創立せり當初會員各金二圓宛を集め畑〇甲五〇〇を購入し其收益を會の維持費に充つる事として今日に至ると

祖師公會 鹿草庄頂潭

祭神 祖先
會員 十五人(當地林姓のみ)
創立 二百年前

例祭 舊曆正月五日
管理人 鹿草庄頂潭 林福

爐主 鹿草庄頂潭 林芸

沿革及經理 當地林家の一族が當地移住の際奉持し來り同姓を叫合して本會を創立せり初め會員相互醸出して畑五甲餘を購入し其收益を以て會の維持費に充て今日に至ると現所屬財產田二甲一八二五、畑四甲四一五二年小作料百三十餘圓に上ると

觀音媽會 鹿草庄頂潭

祭神 觀音媽
會員 十人(同地林姓の者)
創立 二百年前
例祭 舊曆六月十九日
爐主 頂潭庄
林有明
林水連
管理人 同

沿革及經理 當地の林德懋なる者二百餘年前店仔口の火山廟より分香し來り本會を創立せり創立の初め會員醸金して畑一甲一〇〇〇を購入し其收益を以て會の維持費に充つる事として今日に及べりと

質齊公會 鹿草庄頂潭

祭神 質齊公
會員 八名(同地林姓の者)
創立 約百五十年前
例祭 舊曆七月十五日
鹿草庄頂潭
林 庚
管理人 同

沿革及經理 林氏の始祖常春公より九世に當る本祭神を同地林家の一族集まつて本會を創立し田畑一甲餘を买入れ其收益を以て會の維持費に充て今日に及べるものにして現所屬財產畑一甲、年收二十四圓餘ありと

觀音媽會 鹿草庄頂潭

祭神 觀音媽
會員 八人(同地林姓の者)
創立 二百年前
例祭 舊曆六月十九日
爐主 鹿草庄頂潭
林 準
同 人
管理人 同

沿革及經理 現爐主林準の祖先が火山廟の觀音媽を分香し來り信者を叫合し各醸金の上畑一甲を基本財産として購入し本會を創立せり會は爾來財產收入年十六圓餘に依つて維持され今日に及ぶ

裕翁公會 鹿草庄頂潭

祭神 裕翁公
會員 十二人(同地林姓の者)
創立 六十年前

例祭 舊曆正月七日、二月四日

沿革及經理 林姓の祖先裕王公を祭祀せんが爲め林姓なる者發起して本會を創立し會員各十圓宛を出して畑二甲を購入し所屬財產とし其收益にて祭事を行ひ會の維持を爲す事とし今日に及ぶと

文養公會 鹿草庄頂潭

祭神 文養公
會員 五十一人(同地林姓の者)
創立 不詳
例祭 舊曆正月五日、六月十五日、九月廿六日
鹿草庄頂潭
林友明
管理人 同

沿革及經理 林文養公を其子孫が祭祀する爲め本會を創立し各會員醸金して田一甲一〇〇〇を買い此收入を以て祭事費維持費に充つる事とし今日に至ると

上帝公會 鹿草庄頂潭

祭神 上帝公
會員 七人
創立 光緒年間
例祭 舊曆三月三日
鹿草庄頂潭
林 富
黃 隣
爐主 鹿草庄頂潭
同 人
管理人 同

沿革及經理 同地の林士なる者主唱して本會を創立し會員より四十四圓を醸集して畑二分五厘を买入れ其收益年約八圓を以て祭事費維持費に充て今日に至ると

祖公會 鹿草庄頂潭

祭神 祖先
會員 七十三人(同地林姓の者)
創立 百六十八年前
例祭 舊曆冬至の節日
鹿草庄頂潭
林 芸
管理人 同

沿革及經理 同地の林氏祖廟に祭れる祖先を祭祀する爲め同姓者協議の上本會を創立し會員各自醸金して畑三甲八三一〇、田三甲八〇三〇(年收百五十八圓)を購入し此收益を以て祭事費維持費に充て今日に至ると

媽祖會 鹿草庄下潭

祭神 天上聖母
會員 十四人
創立 約百五十年前
例祭 舊曆三月廿三日

爐主 鹿草庄下潭 吳和
 管理人 同 洪友
 沿革及經理 當地の張恭なる者の發起にて本會を組織し會員各自出金の上田畑一甲餘を買入れ其收益(年三十二圓)を以て祭事費維持費に充つる事として今日に至ると

大使公會

鹿草庄下潭
 祭神 大使公
 會員 四十三人(吳姓の者)
 創立 百六十年前
 爐主 鹿草庄下潭 吳添思
 管理人 同 吳鏞

沿革及經理 當地吳樟なる者漳州照安縣大使公廟より分香し來り同姓協議の上本會を創立したるに偶々會員吳滿なる者病氣に罹り祭神に祈願して靈顯あり全快したれば其謝恩の爲畑〇甲五〇〇〇を寄附したれば之を基本財産とし其收益(年十六圓)を以て會の維持及祭典費に充當し今日に至れりと

祖公會

鹿草庄龜佛山
 祭神 祖先
 會員 五人(同地李姓の者)
 創立 約百十年前
 例祭 舊曆二月十五日
 管理人 鹿草庄龜佛山 李王

沿革及經理 同地の李名陞なる者同地三山國王廟に田畑十八甲を寄附し死後同人の位牌を同廟に安置する様謀り庄民の納るゝ處となりしを以て本會を組織し同人の遺言通りに實施し會の維持費は三山國王廟の收益より分給し居れりと

三界公會

鹿草庄埔心
 祭神 三界公
 會員 三十九人
 創立 約四十年前
 例祭 舊曆十月
 管理人 鹿草庄埔心 呂清風

沿革及經理 會員の享福を祈る爲め同地呂仕の發起にて創立し會員の贖金にて土地を購入し其收益を以て祭事費維持費に充て今日に至る現財産池沼一・二・八・五・田〇甲五二六五(年收九圓)ありと

觀音會

鹿草庄埔心
 祭神 觀音佛祖

會員 六人
 創立 約百六十年前
 例祭 舊曆二月十九日
 管理人 鹿草庄埔心 呂琴

關帝爺會

鹿草庄梅子厝
 祭神 關帝爺
 會員 三人
 創立 不詳
 例祭 舊曆三月十五日
 爐主 鹿草庄梅子厝 官分

沿革及經理 沿革其他一切不明なり只だ會の維持は所屬財産の收益に依つて居るが其財産は田〇甲三四六五(年收八圓)ありと

福德爺會

鹿草庄梅子厝
 祭神 福德爺
 會員 十八人
 創立 八十年前
 例祭 舊曆八月十五日
 爐主 鹿草庄梅子厝 官龍江

沿革及經理 會員家運の隆盛を祈る爲め官知母なる者發起創立せり當時會員の贖金にて所屬財産として田一甲〇六六五(年收十二圓)を購入し會の維持費に充て今日に至ると

觀音會

鹿草庄梅子厝
 祭神 觀音佛祖
 會員 三人
 創立 不詳
 例祭 舊曆二月十五日
 爐主 鹿草庄梅子厝 官再

沿革及經理 沿革其他一切不明なり會の維持費は所屬財産田〇甲五六六〇(年收六圓)に依つて支辨されて居ると

三界公會

鹿草庄梅子厝
 祭神 三界公
 會員 九人
 創立 七八十年前
 例祭 舊曆一月十四日

爐 主 鹿草庄梅子厝 邱清林
 沿革及經理 沿革不詳、維持費は所屬財産田〇甲二五六〇(年收二十五圓)に依つて今日に及んで居ると

保生大帝會 ○草庄梅子厝
 祭 神 保生大帝
 會 員 二人
 創立 約八十年前
 例 祭 舊曆三月十六日
 爐 主 鹿草庄梅子厝 官 傑
 沿革及經理 祭神を崇拜する同志の創立に係り會員出願して土地を購入し其收益にて祭費維持費に充て今日に至ると所屬財産田〇甲六七三〇(年收二十五圓)ありと

德福爺會 鹿草庄頂潭二八三

祭 神 土地公
 會 員 九人
 創立 領臺以前
 例 祭 舊曆八月十五日
 管理人 鹿草庄頂潭二八三 林蒼浪
 沿革及經理 作物の豐穰と家族の平安を祈る爲め有志會議の上任意の資金を求め之を基本財産として本會を創立せり斯くて其財産にて土地一甲二六一五(年收七十圓)を購入し其收益に依り會を維持し今日に至ると

關帝爺會 太保庄太保

祭 神 關帝爺
 會 員 八人
 創立 約六十年前
 例 祭 舊曆一月十三日
 管理人 太保庄太保 楊德隆
 同 楊石全
 同 陳 榮
 同 李竹木
 同 劉老色

沿革及經理 同地の王朝文有志と謀り本祭神を奉祀し會員の親睦を計る爲め本會を創立せり創立の當初會員各自幾許宛かの會費を願出して基本金とし之れにて土地を購入し其收益を以て會の維持費に充つる事として今日に及ぶるが現所屬財産は田一甲一八一五、畑一甲五七三五此年收益三十七圓餘ありと

觀音會 太保庄東勢寮

祭 神 觀音佛祖
 會 員 十二人
 創立 不詳
 爐 主 太保庄東勢寮 龔 兵
 沿革及經理 冥福を祈る爲め本祭神を祀る爲め本會を創立せりと云ふ沿革不明なり所屬財産田〇甲四五二〇(年收七圓)あり維持費に充てゝ居ると

陳聖王會 太保庄東勢寮

祭 神 陳聖王
 會 員 十人
 創立 不詳
 爐 主 太保庄東勢寮
 沿革及經理 創立の沿革詳かならざるも會員の冥福を祈る爲め本會を創立し會員各自贖金して土地を購入して基本財産とし其收益を以て維持費に充て今日に及ぶるが其所屬財産は田一甲四五三〇(年收益二十八圓)ありと

清水祖師公會 太保庄新埤

祭 神 清水祖師
 會 員 十四人
 創立 二百六十年前
 例 祭 舊曆一月六日
 爐 主 太保庄新埤 陳六生
 同 嘉義街嘉義 陳仁池
 同 太保庄新埤 陳天來
 管理人 太保庄新埤
 沿革及經理 本祭神は陳某が渡臺の際泉州府南安縣十八都より奉持し來り本會を創立して長く祭祀を續くる事としたるものにして詳細詳かならず所屬財産畑三甲五四四五(年收益三十二圓)あり維持費に充てゝ居ると

媽祖會 太保庄田尾

祭 神 媽祖
 會 員 三十二人
 創立 明治十五年三月廿三日
 例 祭 舊曆三月廿三日
 爐 主 太保庄田尾 黃肅飛

沿革及經理 會員の親睦を圖り會員各自家の無事息災を祈る爲め創立し其維持費に充つべく各自一圓宛を願出して基本金とし之れにて畑〇甲五四二〇(年收六圓)を買ひ入れ維持費として今日に及ぶと

祖師公會 太保庄溪南

祭 神 清水祖師

祭 神 觀音佛祖

祭神 清水祖師
 會員 十六人
 創立 約百十年前
 例祭 舊曆一月六日
 爐主 太保庄溪南 陳見成
 管理人 同 陳頭
 沿革及經理 現管理人の祖先陳某が會員の親睦を圖る爲め創立し會員贖金して基本を作り利殖を計り且つ其一部を割きて畑〇甲四六九五を購入し其收益と貸金の利息を以て維持費に充て今日に及びたるが現所屬財産は畑前記の外に貸金七十圓(年利息十二圓五十錢)ありと

郭公會 太保庄後潭

祭神 郭公爺
 會員 八人
 創立 百餘年前
 例祭 舊曆二月十日
 管理人 太保庄後潭 馬詮
 沿革及經理 百餘年前陳朝貴なる者發起創立せりと云ふの外詳細不明なり現所屬財産畑〇甲四六一五(年收益六圓)あり維持費に充當し居れりと

五谷王會 太保庄後潭

祭神 五谷王
 會員 七人
 創立 百餘年前
 例祭 舊曆四月廿五日
 管理人 太保庄後潭 馬斌
 沿革及經理 百餘年前王佳厚なる者の發起にて本會を創立せりと云ふの外詳細不明なり所屬財産畑〇甲六一四五(年收益五圓五十錢)あり會の維持費に充當し居れりと

上帝爺會 太保庄後潭

祭神 上帝爺
 會員 三十二人
 創立 不詳
 例祭 舊曆三月三日
 爐主 太保庄後潭 王龍溪
 沿革及經理 會員の親睦を圖る爲め蔡石頭なる者發起創立せり所屬財産畑〇甲三四五〇(年收益六圓)あり其收益を會の維持費に充て居ると

觀音會 太保庄後潭

祭神 觀音佛祖
 會員 十八人
 創立 約百七十年前
 例祭 舊曆二月十九日
 爐主 太保庄後潭 陳清寔
 沿革及經理 祭神を信仰する者等相謀り本會を創立し會員贖金の土地を購入し其收益を維持費に充つる事として今日に及べるが現財産田〇甲四五七〇(年收益六圓)ありと

開臺聖王會 太保庄後潭

祭神 開臺聖王
 會員 十二人
 創立 不明
 例祭 舊曆三月十日
 爐主 太保庄後潭 陳清寔
 沿革及經理 同地の龔慶發起となり敬神の趣旨を以て本會を創立し會員各自贖金して基本金とし之を他に貸付其利息を以て會を維持し今日に至る現貸金二十三圓(年利息六圓)ありと

天上聖母會 太保庄後潭

祭神 天上聖母
 會員 三十人
 創立 約百六十年前
 例祭 舊曆三月廿三日
 沿革及經理 同地の媽祖信者協議の上本會を創立し會員各自贖金して基本金とし之を他に貸付け其利息を會の維持費に充つる事として今日に及べるが現在貸金四十圓(年利息十二圓)ありと

三山國王會 太保庄後潭

祭神 三山國王
 會員 三十二人
 創立 約百七十年前
 例祭 舊曆二月廿五日
 爐主 太保庄後潭 陳海
 沿革及經理 本祭神を奉祀する爲め本會を創立し最初は會員贖金に依り千五百餘圓の財産を有したるも其後漸次減少し現今にては僅かに貸付金二十圓年利六圓の收入あるのみにて此利息を會の維持費に充て居れりと

觀音會 太保庄茄苳脚

祭神 觀音媽
 會員 十一人
 創立 明治元年頃
 例祭 不詳
 管理人 太保庄茹荳脚 王氏伴
 沿革及經理 會員各自の冥福を祈り併せて親睦を圖る爲め本會を創立せりと云ふの他一切不明なり所屬財產田〇甲二七一〇(年收四圓八十錢)あり收益を維持費に充てゝ居ると

祖師公會 太保庄茹荳脚

祭神 祖師公
 會員 三十五人
 創立 不詳
 例祭 不詳
 管理人 太保庄茹荳脚 韓母
 沿革及經理 沿革に就いて知る者なく現在所屬財產たる畑〇甲〇七八〇の收益を以て會の維持に充てゝ居ると

太子爺會 太保庄茹荳脚

祭神 太子爺
 會員 十四人
 創立 約七十年前
 例祭 不詳
 管理人 太保庄茹荳脚 王福金
 沿革及經理 創立の沿革に就いて知るものなし現在所屬財產田三甲四九五〇を有し其收益年百四十四圓を以て祭事費維持費に充てゝ居ると

福德爺會 太保庄茹荳脚

祭神 福德爺
 會員 十一人
 創立 明治四年頃
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 太保庄茹荳脚 黃長
 沿革及經理 詳細知る者なし、所屬財產田一甲四二六〇(年收四十八圓)を有し其收益を以て祭事費維持費に充てゝ居ると

上帝爺會 太保庄茹荳脚

祭神 上帝爺
 會員 十人
 創立 不詳
 例祭 舊曆三月三日

管理人 太保庄茹荳脚 蘇出
 沿革及經理 同志協議の上本會を創立し各若干の出资を爲して土地を購入し其收益を會の維持費に充つる事として今日に至る現財產田〇甲六一八〇(年收益八圓)ありと

福德爺會 太保庄茹荳脚

祭神 福德爺
 會員 六人
 創立 不詳
 例祭 舊曆三月三日
 管理人 太保庄茹荳脚 鄭新頂
 沿革及經理 同志の親睦を計り農作物の豐穰を祈る爲め本會を創立し會員出資の上田地を購入し其收益を會の維持費祭事費に充つる事として今日に至ると現所屬財產田〇甲七八八五、此收益年十四圓四十錢ありと

福德爺會 太保庄茹荳子頂

祭神 福德爺
 會員 六人
 創立 不詳
 例祭 舊曆三月三日
 管理人 太保庄茹荳子頂 黃祭
 沿革及經理 同志協議の上本會を創立し會員の酬金にて畑地を購入其收益に依り會を維持し祭典を行ひ來れり所屬財產畑〇甲九一二七、原野〇甲一〇一八其年收益四十四圓ありと

福德爺會 太保庄頂港子墩

祭神 福德爺
 會員 二十四人
 創立 百餘年前
 例祭 舊曆三月三日
 管理人 太保庄頂港子墩 陳興
 沿革及經理 沿革及經理等知る者なし只だ現在所屬財產として畑一甲〇九五五、原野〇甲二三二〇を有し其年收十七圓を會の維持費及祭事費に充當し居れりと

觀音會 太保庄水虞厝

祭神 本尊觀音佛祖
 會員 五十八人(同地葉姓の者)
 創立 二百五十年前
 例祭 舊曆一月十五日
 壇主 太保庄水虞厝 葉尿
 沿革及經理 同地最初の移住者葉堯、葉考、葉尊の

三名が原籍地に於て信仰せし本祭神の尊像を奉持し

三名が原籍地に於て信仰せし本祭神の尊像を奉持し來り本會を創立し會員の贖金にて田畑を購入し其收益を祭費及會の維持費に充つる事として今日に及べるが現所屬財産は田〇甲四〇三〇、畑〇甲二九〇〇年收益十二圓ありと

王公會

祭神 太保庄水虞厓
會員 三王公
六十人(同地業姓の者)

創立 二百五十年前

例祭 舊曆三月三日、六月六日、九月九日
爐主 太保庄水虞厓五一七 葉位

沿革及經理 葉堯、葉考、葉尊の三人が當地移住前に信仰せし本祭神を奉持し來り本會を創立し各自贖金の上所屬財産を購入し其收益に依り會を維持し祭事を行ひ來れり所屬財産畑一甲二五九四(年收四十三圓)ありと

五谷王爺會

祭神 五谷王
會員 十人(蘇魚寮の羅、葉、魏三姓の者)

創立 百年前
例祭 舊曆四月廿六日

沿革及經理 會員相互の和親を圖り且つ財産蓄積の一方法として本會を創立せり所屬財産として貸金十八圓五十錢年利息三圓七十錢あり會の維持費に充てゝ居ると

關帝爺會

祭神 關帝爺、周倉爺、關平
會員 十六人(同郷人のみ)

創立 百九十年前
例祭 舊曆一月十三日、五月十三日

沿革及經理 同郷人相互の親睦を計り且つ蓄財の目的にて郷里に信仰せる關帝爺を祀り本會を創立し會員各一石を提供し之を金に代へ他人に貸與し其利息を以て維持費に充て五年後には元利漸く増大したれば畑〇甲六二五四を購入し其小作料を祭事費及維持費に充て今日に至ると

太子爺會

祭神 太子爺
會員 十人

創立 約百十年前
例祭 舊曆九月九日

沿革及經理 清國福建平和縣より移住せし同郷人相會して親睦を厚ふすべく盛宴を張る爲め本會を創立せり最初會員各自相當の出金を爲し之を他に貸付け其利息を以て宴會費維持費に充つる事とし今日に及べるが現在貸金は六十圓年利息十二圓ありと

三界公會

祭神 三官大帝
會員 十二人

創立 明治十年頃

例祭 舊曆一月十五日
沿革及經理 同郷人相互の親睦を計る爲め陳茂寅、洪達、藏長端、王軒等發起して本會を創立し會員各落花生一斗宛を提出し之を金に代へて基金として他に貸付け其收益を以て祭事費維持費に充て今日に至る現貸付金二十四圓利息四圓八十錢ありと

福德爺會

祭神 福德爺
會員 七人

創立 九十年前
例祭 舊曆十月十五日、十二月十六日

沿革及經理 會員相互の親睦を計り且つ蓄財の目的にて本神を奉祀する事とせり所屬財産貸付金五十圓年利息十圓は祭事費維持費に充當し居れりと

福德爺會

祭神 福德爺
會員 八人(同郷の者)

創立 約百十年前
例祭 舊曆八月十五日

沿革及經理 同郷の者親睦を圖り兼ねて會員の蓄財を勤むる爲め徐進登、葉面、章獅等の祖先が本會を創立したるが會員中の後港庄在住者は漸次他に移轉したれば明治十九年頃會の改造を爲せり所屬財産田二甲〇五九五、年收二十圓を有し祭典費維持費に充てゝ今日に至れるも其財産造成の模様詳かならずと

神明會

義竹庄義竹園

祭神 三王爺
 會員 二十八人
 創立 明治四十四年
 例祭 舊曆九月十六日
 爐主 義竹庄義竹園 翁 利
 沿革及經理 當地翁百年の發起にて本會を創立し維持費として會員各一圓宛を醸出し祭典の際は會員各祭費を分擔支出すと

神明會 義竹庄義竹園

祭神 元帥爺
 會員 十二人
 創立 不明
 例祭 舊曆八月十六日
 爐主 竹庄義竹園 翁 己

沿革及經理 以前より創立されありたるも基本金貸借上の事より會員中異論百出し遂に明治二十年頃解散せり然るに前會員中翁昌外四名の者發起にて會員各自二圓宛を醸出して維持費に充つる事として明治二十五年再興せり祭費醸金の利息を充當し不足の場合は會員平等に出金すと貸付金七十二圓あり

太子爺會 義竹庄新店

祭神 李王爺
 會員 三十人
 創立 乾隆二十三年四月
 例祭 舊曆九月九日
 爐主 義竹庄新店 張水金
 管理人 同 陳 緩

沿革及經理 乾隆二十三年同地の祭容なる者南鯤鯓廟より李王爺を分香し來り其外に池王爺、媽祖、福德爺、太子爺等を合祀する一廟宇を建立せり就中太子爺は本會に於て祭祀を行ふ可く本會を創立せり會の維持に就いては詳かに知るを得ざれども醸金の利息を以て之に充て居れりと云ふも其醸金額等不明なり

王爺會 義竹庄新店

祭神 李王爺
 會員 五百四十人
 創立 乾隆二十三年
 例祭 舊曆四月廿六日
 爐主 義竹庄新店 陳受九
 管理人 同 陳 緩

沿革及經理 當地祭容なる者南鯤鯓廟より李王爺を分請し來り廟宇を建立して之を奉祀せり現在の紹徽宮

は即ち此の廟宇にして本祭神を中心に祭祀を行ふべく本會を創立せり會の維持は信徒の醸金會員の負擔に依れりと

吳府千歲會 義竹庄新店

祭神 木王爺
 會員 三十人(同地江姓の者)
 創立 乾隆二十三年四月
 例祭 舊曆九月十五日
 爐主 義竹庄新店 江 定
 管理人 同 陳 緩

沿革及經理 當地の祭容なる者が發起して南鯤鯓廟より李王爺を分香し來り本會を創立せり會の維持は會員及び信徒の寄進に依れりと

福德爺會 義竹庄新店

祭神 李王爺
 會員 三十人
 創立 乾隆二十三年四月
 例祭 不詳
 爐主 義竹庄新店 柯 謨
 管理人 同 陳 緩

沿革及經理 之れも同地祭容の發起にて創立されたるものにして維持費は會員の醸金の利息を以て充當する事となり居れるが其醸金額等不明

祖祖婆會 義竹庄新店

祭神 李王爺
 會員 三十人
 創立 乾隆二十三年四月
 例祭 舊曆三月二十三日
 爐主 義竹庄新店 施清賀
 管理人 同 陳 緩

沿革及經理 之も同地祭容の發起にて創立したるものにして會の維持は會員の醸金及信者の寄附に依り今日に至ると

王爺會 義竹庄五間厝

祭神 王爺、太子爺
 會員 三十人
 創立 約八十年前
 例祭 舊曆六月十一日
 爐主 義竹庄五間厝 顏 細

沿革及經理 之も南鯤鯓廟より分香し來りたるものなるが靈顯者しきものありとて有志協議の上本會を創

立したるが祭事費維持費は會員より必要に應じて出金し來れりと

け三公會 義竹庄南勢竹

祭神 法主公

會員 九名(同地陳姓の者)

創立 約九十年前

管理人 義竹庄南勢竹 陳和

沿革及經理 最初同地陳姓が祖公を祀る會なりしを其後本祭神を奉祀する事に變更せるものにして會創立の當初より畑一甲二分を有し其收益に依り祭典費及會の維持費を支辨し今日に至ると

陳聖王會 義竹庄牛挑灣

祭神 陳聖王

會員 三十六人(同地陳姓の者)

創立 咸豐四年二月十五日

例祭 不詳

爐主 義竹庄牛挑灣 陳登財

管理人 同 陳崑

沿革及經理 祖先の祭祀を怠らず且つ親戚相親しむべく陳振馨發起して本會を創立せり最初は別に基本金等なかりしも中頃釀金して田二甲三五〇〇を購入し其小作料を以て祭事費維持費を支辨し今日に及べり小作料は年收約二十四圓ありと

福徳爺會 義竹庄溪州

祭神 福徳爺

會員 二百人

創立 二百年前

例祭 舊曆八月十五日

管理人 義竹庄溪州 柯賀

同 柯洪氏格

沿革及經理 創立關係一切不明なり所屬財産祠廟敷地〇甲〇八四五、畑〇甲三六四〇を有し其收益年十圓を祭事費維持費に充て居れりと

池王爺會 義竹庄溪州

祭神 池王爺

會員 十四人(同地柯姓のみ)

創立 百七十年前

例祭 舊曆六月十八日

管理人 義竹庄溪州 柯富、同柯波、同柯繁

沿革及經理 本祭神の祭典に當り祭費の出資を容易ならしむる爲め本會を創立し各會員出金して畑二甲一

二七七、田〇甲三六九七を買入れ其收益にて祭事費及會の維持費を支辨し來りたるが其年收益は六十四圓ありと

